Hokkaido University News

# 北大時報

平成31年
1
No. 778　January 2019

## 大学入試センター試験の実施
## 第21回北海道大学-ソウル大学校ジョイントシンポジウムを開催

お知らせ

・輸出貿易管理令別表第一の一部改正に本学教員が寄与

No.778 平成31年

# 目 次

1

日本経済新聞社「大学改革シンポジウム」

赤い糸会＆緑の会

## 全学ニュース


1　大学入試センター試験の実施
2　第21回北海道大学-ソウル大学校ジョイントシンポジウムを開催
8　オフナー・フレルスフ・モンゴル国首相が本学を訪問
9　西井理事・副学長が日本経済新聞社「大学改革シンポジウム」に登壇
10　北大フロンティア基金
12　「国民との科学・技術対話」推進に関する研究支援事業で高校生に向けた講義を実施
14　Science Lecture 2018「え？こんなモノがあんな生き物から！？～生き物にまねる，新たなモノづくり バイオミメティクス～」を開催
16　北海道大学アンバサダー・パートナー（ベトナム）委嘱状交付式等を開催
17　平成30年度北海道大学ユニバーシティ・アドミニストレーター育成講座を実施
18　新渡戸学「フェローゼミ」の全体発表会を開催
19　人材育成本部上級人材育成ステーションS-cubicで第37回「赤い糸会＆緑の会」を開催
20　高等教育研修センターにて研修会を開催
22　「スマートデバイス・計測・新技術説明会」を開催
23　サステイナブルキャンパスマネジメント本部「実験施設に特化した省エネ対策報告会」を開催
24　国際連携研究教育局（GI-CoRE）量子医理工学グローバルステーションがフローニンゲン大学と４次元粒子線治療ワークショップを共催
25　国際連携研究教育局（GI-CoRE）ビッグデータ・サイバーセキュリティグローバルステーション（GSB）が「ビッグデータ・サイバーセキュリティ・IoTに関する国際シンポジウム」を開催


## 部局ニュース


26　歯学研究院・歯学院・歯学部が国立陽明大学と部局間交流協定等を締結
26　洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会と相互協力協定を締結
27　平成30年度薬学部成績優秀賞授与式を挙行
28　観光学高等研究センター公開講座「観光研究者が語る『私の旅』」が終了
29　スラブ・ユーラシア研究センター 2018年度冬期国際シンポジウム「帝国・ブロック・連邦にそびえる言語 1918-2018」開催
30　公開FD講演会「SDGs勉強会in北大vol.001」を先端生命科学研究院・理学研究院で開催
32　生命科学院がアクティブラーニング形式の「Research Ethics Workshop for IGP students（研究倫理ワークショップ）」を開催
33　農学研究院長，国際食資源学院長等がカセサート大学農学部カンペンセン校を訪問
34　農学研究院長，国際食資源学院長等がシンガポール国立大学理学部を訪問
35　農学部学生の撮影写真が株式会社日本政策投資銀行「北海道ハンドブック」の表紙を飾る
35　工学系部局で「第２回こころの健康セミナー」を開催
36　低温科学研究所技術部で第８回技術部セミナーと第24回技術報告会を開催
36　高森　明氏の作品「カスベA」を水産科学研究院で受贈
37　函館キャンパスで防災訓練を実施
37　スポーツチャンバラ世界選手権大会で本学学生及び職員が活躍
38　北海道大学病院で「第59回ふれあいコンサート クリスマスの夕べ」を開催
39　第６回北極域オープンセミナーを開催


## お知らせ


40　輸出貿易管理令別表第一の一部改正に本学教員が寄与


## 博士学位記授与　40

## レクリエーション


43　平成30年度学内教職員フットサル大会の開催


## 諸会議の開催状況　44

## 学内規程　45

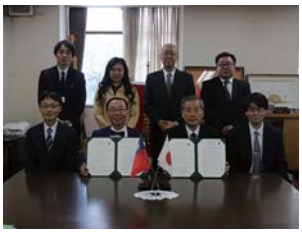
## 研修


46　平成30年度北海道地区国立大学法人等学生支援担当職員SD研修


## 表敬訪問　46

## 人事　47


47　新任部局長等紹介
48　新任教授紹介



歯学研究院・歯学院・歯学部
部局間交流協定締結

洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会と相互協力協定締結

生命科学院
研究倫理ワークショップを開催

水産科学研究院
高森明氏の絵画作品を受贈

表　紙：Science Lecture 2018を開催（関連記事14頁に掲載）
裏表紙：北の鉄道風景⑩ 列車交換

## 全学ニュース

# 大学入試センター試験の実施

平成31年度の大学入試センター試験が，１月19日（土），20日（日）の両日，全国一斉に実施されました。

本学においても，大学入試センター試験実施体制により，実施本部，総務部，試験場部，救急医療部，連絡部及び広報部を設置し，本学教職員等延べ約1,200人の協力を得て，平穏のうちに終了しました。

全国の志願者は，前年度より5,841人減少し576,830人でした。道内の志願者は，前年度より398人減少し18,000人となりました。

本学が担当する試験場（藤女子大学試験場を含む）の志願者数は，昨年より332人少ない5,015人で，各試験場（会場）の受験状況は次のとおりです。

（学務部入試課）

### 平成31年度大学入試センター試験受験状況

| 日程 | | | 1月19日（土） | | | | | | | | | | 1月20日（日） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教科 | | | 地理歴史，公民 | | 国語 | | 外国語【筆記】 | | 英語【リスニング】 | | 英語【リスニング】再開テスト | | 理科① | | 数学① | | 数学② | | 理科② | |
| 試験場（会場）名・志願者数 | | | 受験者数 | 欠席者数 | 受験者数 | 欠席者数 | 受験者数 | 欠席者数 | 受験者数 | 欠席者数 | 受験者数 | 辞退者数 | 受験者数 | 欠席者数 | 受験者数 | 欠席者数 | 受験者数 | 欠席者数 | 受験者数 | 欠席者数 |
| 北海道大学試験場 | 農学部会場 | 603 | 587 | 16 | 588 | 15 | 589 | 14 | 588 | 15 | | | 0 | 603 | 589 | 14 | 587 | 16 | 586 | 17 |
| | 人文・社会科学総合教育研究棟会場 | 735 | 693 | 42 | 702 | 33 | 701 | 34 | 700 | 35 | | | 5 | 730 | 704 | 31 | 696 | 39 | 693 | 42 |
| | 理学部会場 | 350 | 268 | 82 | 297 | 53 | 311 | 39 | 300 | 50 | | | 239 | 111 | 285 | 65 | 237 | 113 | 247 | 103 |
| | 工学部会場 | 599 | 387 | 212 | 508 | 91 | 539 | 60 | 502 | 97 | | | 433 | 166 | 530 | 69 | 460 | 139 | 124 | 475 |
| | 高等教育推進機構 A会場 | 693 | 599 | 94 | 598 | 95 | 591 | 102 | 521 | 172 | | | 94 | 599 | 139 | 554 | 57 | 636 | 0 | 693 |
| | 高等教育推進機構 B会場 | 785 | 751 | 34 | 764 | 21 | 763 | 22 | 757 | 28 | | | 701 | 84 | 710 | 75 | 670 | 115 | 0 | 785 |
| | 保健科学研究院会場 | 436 | 380 | 56 | 393 | 43 | 412 | 24 | 405 | 31 | 2 | 0 | 325 | 111 | 374 | 62 | 351 | 85 | 42 | 394 |
| | 高等教育推進機構 N会場 | 14 | 11 | 3 | 12 | 2 | 13 | 1 | 12 | 2 | | | 5 | 9 | 10 | 4 | 10 | 4 | 6 | 8 |
| 藤女子大学試験場 | | 500 | 359 | 141 | 420 | 80 | 413 | 87 | 391 | 109 | | | 214 | 286 | 224 | 276 | 150 | 350 | 0 | 500 |
| 札幌地区　小計 | | 4,715 | 4,035 | 680 | 4,282 | 433 | 4,332 | 383 | 4,176 | 539 | 2 | 0 | 2,016 | 2,699 | 3,565 | 1,150 | 3,218 | 1,497 | 1,698 | 3,017 |
| | | | 85.6% | 14.4% | 90.8% | 9.2% | 91.9% | 8.1% | 88.6% | 11.4% | | | 42.8% | 57.2% | 75.6% | 24.4% | 68.3% | 31.7% | 36.0% | 64.0% |
| 北海道大学水産学部試験場 | | 300 | 273 | 27 | 277 | 23 | 280 | 20 | 278 | 22 | | | 122 | 178 | 268 | 32 | 249 | 51 | 141 | 159 |
| 合　計 | | 5,015 | 4,308 | 707 | 4,559 | 456 | 4,612 | 403 | 4,454 | 561 | 2 | 0 | 2,138 | 2,877 | 3,833 | 1,182 | 3,467 | 1,548 | 1,839 | 3,176 |
| | | | 85.9% | 14.1% | 90.9% | 9.1% | 92.0% | 8.0% | 88.8% | 11.2% | | | 42.6% | 57.4% | 76.4% | 23.6% | 69.1% | 30.9% | 36.7% | 63.3% |

※欠席者には当該教科を「受験しない」と申請し登録していない者も含まれる

受験風景

# 第21回北海道大学-ソウル大学校ジョイントシンポジウムを開催

11月8日（木），9日（金）に，韓国ソウル大学校（Seoul National University, SNU）と本学のジョイントシンポジウムを開催しました。両大学の合同シンポジウムは，平成10年より毎年交互にホスト校となる形で開催しています。

第21回となった本シンポジウムでは，先方の強い希望もあり，全体会及び歓迎レセプションを復活させることとなり，「学術図書館の挑戦と大学博物館／美術館の役割」というテーマのもと開催しました。

本学総合博物館の小林快次准教授と，高等教育推進機構の重田勝介准教授から，それぞれ博物館及び文書館・図書館で備えるデータベースの紹介があり，特に，東京芸術大学に続き，大学附属博物館では日本で２番目の訪問者数を誇ることや展示の妙に感心の声が上がりました。ソウル大学校美術館のチョン・ヨンモク教授とソウル大学校図書館長であるソ・イジョン教授からは，それぞれの美術館と図書館の施設機能の紹介と今後の展望が述べられました。全体会のテーマとしては珍しく，学術施設・設備を扱ったものでしたが，今後の機能強化及び施設面での連携に向けた，良い情報交換の場となりました。

全体会の参加者には，大学院共通科目である「博物館コミュニケーション特論 ミュージアムグッズの開発と評価」において，６名の受講生が企画・デザインしたグッズが配布されました。

また，昨年より開始した職員交流も継続して行われ，今年は２名の国際部署事務職員を受け入れることとなり，同時期に受け入れたイタリアのカ・フォスカリ大学の人事担当職員とともに，本学関係部署での研修に参加しました。

今年度は９部局から10分科会が本学札幌キャンパスを主会場として催され，両大学及び他校から約300名が参加しました。

（国際部国際連携課）

総合博物館　小林准教授

高等教育推進機構　重田准教授

SNU美術館　チョン教授

SNU図書館長　ソ教授

全体会参加者の様子

分科会1

## The 7th HU-SNU Joint Symposium on Materials Science and Engineering

第7回材料科学に関する合同シンポジウム／工学研究院　教授　橋本直幸

本シンポジウムは，ソウル大学校のYoungwoon KIM教授の協力のもと，本学工学研究院材料科学部門とソウル大学校工科大学材料工学科との間で開始され，３回目よりHeung Nam HAN教授を窓口とし，本年度は11月９日（金）に本学工学研究院材料科学棟内中会議室において開催しました。ソウル大学校・本学双方から計10名の教授・准教授に，本学の大学院生及び学部生20数名を加えた，計30名以上が参加し，先生方から材料科学に関する最新の研究を紹介していただきました。発表いただいた内容には両大学とも共通の研究課題があり，最新の成果報告により活発かつ有意義な討論が行われ，今後も引き続き情報交換することで一致しました。また，大学院生（博士後期課程）数名による口頭発表も行われ，ソウル大学校・本学教授陣が審査した後，２名にExcellent Presentation Award（優秀論文発表賞）を授与しました。今後はさらに，本学の新渡戸プロジェクトを念頭にした学部生対象のインターンシッププログラムや，サマースクールの開講も積極的に進める方向で一致し，分科会の行事を終了しました。本シンポジウムは，来年度はソウル大学校で行われます。

シンポジウムでの討論の様子

参加者集合写真

優秀論文発表賞受賞者：長谷川君

分科会2

## 2018 International Workshop on New Frontiers in Convergence Science and Technology

2018複合領域科学及び技術に関する国際ワークショップ／情報科学研究科　教授　平田　拓

11月９日（金）に，カウンターパートであるソウル大学校コンバージェンス科学技術学院（Graduate School of Convergence Science and Technology, GSCST）とともに，情報科学研究科において分科会を開催しました。分科会の冒頭には，北　裕幸情報科学研究科長からソウル大学校の参加者へ歓迎の言葉が述べられました。分科会では11件の口頭発表（本学７件，ソウル大学校４件）と18件のポスター発表（本学７件，ソウル大学校11件）が行われました。本学からは情報科学研究科の金井　理教授，田中　章教授，岡嶋孝治教授，瀧川一学准教授，坂本大介准教授，量子集積エレクトロニクス研究センターの佐藤威友准教授，それに分科会代表者である平田　拓教授の７名が研究紹介を行いました。また，大学院生７名がポスター発表を行いました。

分科会では，本学，ソウル大学校双方からナノマテリアル分野，バイオ関連分野，情報通信分野の研究紹介が行われ，本学の教員７名及び大学院生７名とソウル大学校の教員４名及び大学院生17名の合計35名が参加しました。予定よりも多くソウル大学校の大学院生が参加してくれたため，盛会な分科会となりました。分科会の後は，新たな研究の交流や学生の派遣について意見交換し，今後も引続き交流を進め，共同研究や学生の相互派遣の機会を探ることを約束して分科会を終了しました。

参加者集合写真

分科会3

## The 13th HU-SNU Joint Symposium on Mathematics: Probability and Functional Analysis

第13回HU-SNU数学に関するジョイントシンポジウム：確率論と関数解析／理学研究院　教授　正宗　淳

今回で13回目となる数学関連の分科会「確率と関数解析」を11月８日（木）・９日（金）に本学で開催しました。分科会では８日（木）の開会の挨拶の後，二日間に亘り全部で13の講演（ソウル大学校６名，本学７名）が行われ，確率論と関数解析，ポテンシャル論に関わる研究成果の報告と情報交換が行われました。５名の大学院生（ソウル大学校３名，本学２名）が講演を行い，参加者の国籍も日韓以外にドイツ，タイと多彩で，貴重な国際交流の機会になりました。

全体会・レセプションでは興味深い講義やスピーチも多く，このような大学レベルの交流や研究集会を継続開催していくことの重要性が再認識されるとともに，今後も協力して開催していくことなどに多くの賛同が集まりました。また，シンポジウム後の懇親会では，今後の共同研究の可能性について議論するとともにこれまで培ってきた親睦を一層深めることができました。

講演者と講演タイトルなどの詳細については次のホームページをご覧ください。

◆http://www.math.sci.hokudai.ac.jp/sympo/snu/2018/index.html

集合写真

分科会4

## 2018 Changing Role and Functions of the Dental Library in the Future

これからの歯学図書館の役割と機能の改変について／歯学研究院長　八若保孝

本分科会は，ソウル大学校歯学部と本学歯学研究院がカウンターパートとなり，「これからの歯学図書館の役割と機能の改変（Changing Role and Functions of the Dental Library in the Future）」をテーマに11月８日（木）に歯学研究院において開催しました。本分科会は，全体で25名ほどの参加者があり，八若保孝歯学研究院長の挨拶の後，歯学研究院の髙橋　茂准教授とソウル大学歯学部のSam-Sun LEE教授が，これからの歯学図書館の役割と機能の改変について講演しました。講演後のフリーディスカッションでは，ソウル大学校歯学部図書館の司書であるYounghee LIM氏も登壇し，活発な意見交換がなされました。

なお，分科会後のレセプションに加えて，前日には歯学研究院主催の懇親会も開催し，両学部等の親睦を深めるとともに，今後も両学部等の交流を進め，将来的には部局間交流協定を締結し，学生の派遣や共同研究に結びつけていくことで意見が一致しました。

講演する髙橋准教授

講演するLEE教授

分科会5

## Collective Memory, History, and Sociology

集合的記憶と歴史，社会学／文学研究科　教授　櫻井義秀

12月７日（金）に，本学のファカルティハウスエンレイソウ第一会議室において，ソウル大学校社会学科教員４名と，本学文学研究科教員３名，経済学研究科等教員３名と大学院生による第６回目のワークショップを開催しました。今年のテーマは「集合的記憶と歴史，社会学」であり，日韓双方から，現代における集合的記憶と歴史認識，現代人の孤立感とウェルビーイング，リベラリズムやアイロニーの精神などについて計７本の英語による発表と質疑が行われました。

また，ワークショップの前後に今後のワークショップの展開について検討し，各自の研究関心に基づいた共同研究の企画についても検討しました。来年度以降は，ソウル大学校と本学に限らず，東アジアにおいて共同の関心を持つ研究者のワークショップやネットワークを作ることを少しずつ進めることが確認されました。

集合写真

分科会6

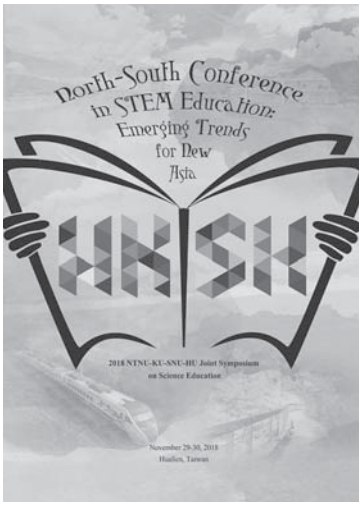
## 2018 NTNU-KU-SNU-HU Joint Symposium on Science Education North-South Conference in STEM Education: Emerging Trends for New Asia

2018 NTNU-KU-SNU-HU 理科教育ジョイントシンポジウムSTEM教育の南北会議：アジアの最新動向／教育学研究院　教授　大野栄三

本分科会は，台湾東部の花蓮縣にある国立東華大学（National Dong Hwa University）で，東アジアの理科教育国際会議（2018 EASE）の日程と合わせて，11月29日（木）・30日（金）に開催されました。諸事情により，北大側代表者（大野栄三教授）が不参加となりましたが，代表者発表用資料から台湾師範大学（NTNU）のChun-Yen CHANG教授に作成いただいたポスターを当日会場に掲示することができました。次回の分科会は，タイのカセサート大学（KU）が幹事校となってバンコクで開催する予定です。

12月中旬にソウル国立大学のJuneheeYOO教授を訪問した際に分科会の様子について詳しく伺ったところ，今回の分科会は，ベトナムのハノイ国立教育大学（HNUE）とインドネシアのジェンベル大学からも多数の参加者があり，熱気のある分科会になったとのことでした。ベトナムのHNUEは，次回分科会からメンバーに加わりたい意向を示しており，実現すれば，アジアの５大学が集まる分科会になります。

2018EASEの看板前で撮った集合写真




本分科会のポスター

分科会7

## Toward Understanding of Changing Environment in East Asia

東アジア域の変わりゆく環境の理解に向けて／理学研究院　准教授　佐々木克徳

本分科会では「東アジア域の変わりゆく環境の理解に向けて」というテーマで，本学理学研究院において，計14件の研究発表（うち，学生発表８件）を行いました。分科会は本学の佐々木克徳准教授による歓迎の挨拶で始まり，主に東アジア域の海洋変動についてのサブセッションを開催し，本学から４名とソウル大学校から３名が東アジア域の沿岸水位上昇や北太平洋の貧酸素化の研究についての発表を行いました。サブセッションの終了後，分科会独自の博物館ツアーを開催し，本学の学生が主導して博物館を見学し交流を深めました。

午後は気象学に焦点を当てた後半のサブセッションを開催し，本学から３名，ソウル大学校から４名が，大気海洋相互作用や地球温暖化への適応研究について発表を行いました。分科会の最後にはソウル大学校のHanna NA助教より，発表者（特に大学院生）の活発な発表と討論への賛辞と，来年のソウル大学校での分科会における再会を約束して閉会となりました。

本分科会では１日を通じて約30名の出席者があり，本学の学生にとっても国際経験を積む良い機会となりました。今後とも両校の間の活発な交流を維持するよう努めていきたいと考えています。

集合写真

分科会8

## Hokkaido University–Seoul National University Joint Symposium in Ophthalmology

第13回日韓眼科シンポジウム／北海道大学病院　診療准教授　南場研一

11月16日（金），医学研究院中央研究棟３階セミナー室において分科会「第13回日韓眼科シンポジウム」を開催しました。本学から教員６名，医員７名，大学院生４名，研修医５名，視能訓練士２名が，ソウル大学校からHyeong Gon YU教授，Baek-Lok OH教員の２名が参加しました。各10分の演題が本学から７題，ソウル大学校から２題発表されましたが，いずれも先進的な学術的に意義の高い演題であり，活発な議論が行われました。

ソウル大学校Hyeong Gon YU教授からは「ベーチェット病に対するTNF阻害薬治療」に関する講演が行われ，同じアジアで臨床研究・基礎研究に真摯に取り組んでいる姿勢に本学の若手眼科医も良い刺激を受けたことと思われます。最後に本学医学研究院の石田晋主任教授から閉会の挨拶があり，今後も両大学間での親睦を深めていくことが再確認されました。

翌日の11月17日（土）には眼炎症性疾患の難治症例について症例検討会を行い，本学から２症例，ソウル大学校から１症例の呈示がなされ，こちらも活発な討論が行われました。

来年はソウルにて第14回日韓眼科シンポジウムを行う予定です。

集合写真

分科会9

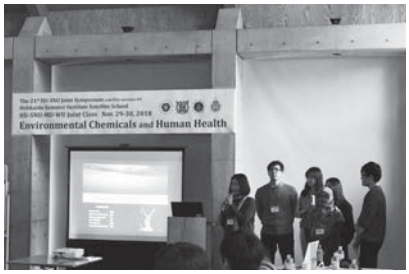
## HU-SNU-MU-WU Joint Course: Environmental Chemicals and Human Health

HU-SNU-MU-WU協同講義：環境化学物質と人びとの健康／環境健康科学研究教育センター　特別招へい教授　岸　玲子

11月29日（木）・30日（金）に，本分科会を開催しました。本分科会はソウル大学校（SNU）との協同講義としては３回目で，本学とSNUに加えて，タイのマヒドン大学（MU）及びワライラック大学（WU）の４大学に所属する教員20名及び大学院生28名が参加しました。環境と健康分野に関する基礎知識に加えて，最近の環境問題やその対策を含め，幅広い知識を習得させることができました。環境保健，環境疫学を専門とする大学院生のみならず，本学からは留学生も含めた保健科学院，獣医学院，国際感染症学院，生命科学院，理学院，工学院，環境科学院に所属する大学院生が参加し，多様な視点を持つ質問や意見が出されました。４大学に所属する大学院生の混合構成による５グループが事前学習とプレゼンテーションを実施し，いずれも非常にクオリティが高い発表となりました。本講義を通じて本学とSNUの大学院生間のみならず，MUやWUの大学院生との交流も通じてネットワークを形成することは，受講生が将来のキャリアを形成する上でも有益でした。

受講生からの評価も高く，来年度も参加したいという希望が寄せられていることから，今後も継続して講義を行っていくことが望まれています。各大学のカウンターパートの教員とも，今後も継続して協同講義を行っていくことを約束し，分科会を終了しました。

集合写真



グループプレゼンテーション

分科会10

## 6th HUH-SNUH-SHH Joint Symposium

第6回北海道大学病院-ソウル大学校病院ジョイントシンポジウム／北海道大学病院長　寳金清博

11月９日（金）に「第６回北海道大学病院－ソウル大学校病院ジョイントシンポジウム」を開催しました。今回も昨年に引き続き，本院と部局間交流協定を締結している台北医学大学双和病院が特別参加しました。

分科会は寳金清博病院長，ソウル大学校病院YonSu KIM副病院長，台北医学大学双和病院Ming-Chin LIN助教による挨拶で始まり，「ICT and IOT in medicine（医療におけるICTとIOT）」というテーマのもと，各大学から２名ずつ発表を行いました。本院からは，長内俊也助教が「脳卒中ケアとICT（情報通信技術）」について，横田卓助教が「心不全の管理と予防におけるICT及びIoT」について発表し，それぞれの発表後には活発な質疑応答，意見交換が行われ，本会は寳金病院長からの挨拶により盛会裡に閉会しました。

今後も両大学病院間の連携強化のみならず，３大学間の緊密なネットワーク構築によるさらなる発展が期待されます。

集合写真

# オフナー・フレルスフ・モンゴル国首相が本学を訪問

集合写真（前列左から4番目がフレルスフ首相）

ワークショップの様子

12月14日（金），オフナー・フレルスフ・モンゴル国首相が本学を訪問されました。フレルスフ首相は12月12日（水）から15日（土）まで日本を公式訪問され，この機会を活用して北海道を訪問されました。

本学とモンゴル国とは，2009年にモンゴル生命科学大学，2011年にモンゴル国立大学と大学間交流協定を締結以降，学生交流や教員交流を推進してきました。この他，現在，本学農学研究院及び獣医学研究院を中心に，８つの部局間交流協定を締結しています。

当日は，フレルスフ首相をはじめとするモンゴル国政府関係者15名と笠原理事・副学長を中心とする本学関係者との昼食会を開催し，意見交換を行いました。続いて，本学創成研究機構において，日本－モンゴル国研究交流ワークショップを開催しました。

ワークショップでは，本学で学ぶモンゴル人学生の研究発表及び現在進んでいる日本とモンゴル国の共同研究事例の紹介等が行われました。フレルスフ首相からは，両国間で築かれた良好な関係について，JICA事業「獣医・畜産分野人材育成能力強化プロジェクト」における本学獣医学研究院による協力に対する謝辞や本学の最先端研究事例に感動した旨の感想が話され，さらに今後は，より活発に日本とモンゴル国の協力関係を強化していきたいとの抱負で挨拶を締めくくりました。

（国際部国際連携課）

# 西井理事・副学長が日本経済新聞社「大学改革シンポジウム」に登壇

１月11日（金）に日経ホール（東京都千代田区）において開催された「大学改革シンポジウム」（日本経済新聞社主催）に西井準治理事・副学長がパネリストとして参加しました。

10回目を迎えた今年のシンポジウムでは，まず「役に立つ大学とは何か」をテーマに，立命館アジア太平洋大学（APU）の出口治明学長とジャーナリストで東京工業大学特命教授の池上彰氏による対談があった後，「企業人の経験を活かす」と題し，出口学長，大阪府立大学の辻　洋理事長・学長，本学西井理事・副学長をパネリスト，池上氏をモデレーターとしてパネル討論が行われました。

討論では，企業人としての経験を有する各パネリストが，日頃感じている日本の大学が抱える諸問題や解決の方向性，今後の展望について，国公私立それぞれの立場・視点から議論を交わしました。

西井理事・副学長は，産学連携における工夫や新たな取組などについて大局的な視点から具体的な事例を北海道の特性や弱点・課題などを交えながら説明し，さらには「これからを支える人づくり」などについても活発に論じました。

会場では約600名の聴講者が熱心に耳を傾け，充実感と温かみのある雰囲気のなかで閉会となりました。

なお，当日の様子は日経チャンネル（https://channel.nikkei.co.jp/）にてアーカイブ配信されているほか，２月13日（水）の日本経済新聞朝刊に特集記事が掲載される予定です。

（総務企画部広報課）

パネル討論の様子

西井理事・副学長

# 北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は，本学の創基130年を機に，教育研究の一層の充実を図り，これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため，平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に，研究支援，学部等支援など様々な事業を行っており，期限を付さない，息の長い募金活動をすることとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき，ご協力をお願いします。

| | |
|---|---|
| **北大フロンティア基金情報**<br>**基金累計額**（12月31日現在） | 23,496件　4,696,895,120円 |

## 12月のご寄附状況

法人等10社，個人名の200名の方々から85,052,925円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに，同意をいただいている方々のご芳名，銘板の掲示，感謝状の贈呈について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

### 寄附者ご芳名（法人等）

公益財団法人大阪難病研究財団，大鵬薬品工業株式会社，寺田医院，北大医学部獅子の会，
北楡会（北大工学部 電気・電子・情報・生体系同窓会），医療法人社団横田内科医院，
株式会社よしもとクリエイティブ・エージェンシー

### 寄附者ご芳名（個　人）

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 合川　正幸 | 東　市郎 | 井形　眞一 | 五十嵐友一 | 五十嵐裕美子 | 石川三千雄 | 石黒　公美 | 石本　明久 |
| 石山　祐二 | 石渡　英夫 | 一柳　俊一 | 猪股　友和 | 今井　久雄 | 入澤　秀次 | 岩井　隆郎 | 岩下　明裕 |
| 大石　博昭 | 大岩　大祐 | 大隈　昭二 | 大島　久 | 大原　正範 | 緒方　清一 | 小川　英之 | 小田原一史 |
| 小内　透 | 尾身　秀寛 | 梶井　直文 | 片山　佳美 | 勝山　真吉 | 嘉藤　好彦 | 金川　眞行 | 亀田　啓 |
| 河本　充司 | 岸並　正憲 | 宜寿次盛生 | 木村　鉄宣 | 工藤　峰生 | 桑原　照雄 | 小林　幸徳 | 小守林　訓 |
| 齋藤　駿次 | 斉藤　久 | 斎藤　浩司 | 坂本　大介 | 坂本　信行 | 佐藤　広文 | 佐野　公昭 | 三升畑元基 |
| 志済　聡子 | 渋谷　正人 | 清水　研一 | 下間　卓 | 蛇川　忠暉 | 榛葉　貴博 | 菅埜　誠 | 杉江　和男 |
| 鈴木　貴之 | 瀬川　章 | 瀬名波栄潤 | 高木　直良 | 高田　弘 | 高野　宏平 | 高橋　秀昭 | 高橋　弓景 |
| 田嶼　朝子 | 橘　孝則 | 田中　譽典 | 田辺　暢浩 | 檀上　泰 | 丹野　元晴 | 辻　勉 | 津田　栄継 |
| 土家　琢磨 | 土屋　裕 | 坪根　輝彦 | 寺井　継男 | 寺澤　睦 | 照屋　均 | 戸田　純子 | 豊田　威信 |
| 永井　典久 | 長尾　敬志 | 中塚　英俊 | 中根　理 | 中町　昭道 | 西山　和仁 | 沼田　哲男 | 野澤　文峰 |
| 野村　修一 | 野村　俊夫 | 橋本　紘治 | 橋本　靖郎 | 林寺　正俊 | 東　昭彦 | 久木　一朗 | 平井　喜郎 |
| 広瀬　隆之 | 福富　京 | 福永　悟郎 | 舩津　保浩 | 本多　宏光 | In memory of 本間マイケル | 前川　立夫 | 前田　博 |
| 政氏　伸夫 | 松岡　俊介 | 松沢　幸一 | 松原　謙一 | 松本　修一 | 三浦　康史 | 三木　正敏 | 水野　博文 |
| 皆川　一志 | 峰村　明里 | 宮田　俊弘 | 宮田　信幸 | 村上　幸夫 | 守内　哲也 | 守内　順子 | 八重原幹樹 |
| 保田　晋助 | 安丸　定則 | 山口　正三 | 横井　成尚 | 横田　愼一 | 横山　考 | 吉岡　亨 | 吉岡　正俊 |
| 吉田　広志 | 米子　房伸 | 脇川　康夫 | 和久井俊秀 | 渡邉　誠 | | | |

## 銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

（法　人）

公益財団法人大阪難病研究財団，北大医学部獅子の会

（個　人）

石渡　英夫，猪股　友和，梶井　直文，勝山　真吉，小林　幸徳，佐野　公昭，高野　宏平，田辺　暢浩，檀上　　泰，沼田　哲男，橋本　紘治，福富　　京，本多　宏光，In memory of 本間マイケル，松岡　俊介，守内　哲也，守内　順子，保田　晋助，安丸　定則，横田　愼一

## 感謝状の贈呈

伊藤組土建株式会社　様（平成30年12月4日）

横田　篤　様（平成30年12月4日）

山下　勇　様（平成30年12月6日）

株式会社クボタ　様（平成30年12月13日）

角田　実　様（中央）（平成30年12月17日）

パシフィックシステム株式会社　様
（平成30年12月20日）

小林　修　様（平成30年12月26日）

### ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員の方によるご寄附について」にアクセスして下さい。
https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff.html

**①給与からの引き落とし**

ホームページから「北大フロンティア基金申込書（兼・給与口座からの引落依頼書）」をダウンロードし，ご記入の上，基金事務室に提出してください。

**②郵便局または銀行への振り込み**

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

**③現金でのご寄附**

寄附申込書に現金を添えて，基金事務室にご持参ください。
申込書は，ホームページから「北大フロンティア基金申込書（教職員現金用）」をダウンロードしてご記入いただくか，基金事務室にもご用意していますので，基金事務室にお越しいただいてからご記入いただくことも可能です。

**④クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附**

北大フロンティア基金ホームページ
（https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi）の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ
基金事務室（北海道大学 百年記念会館内・学内電話　2017）

（総務企画部広報課）

# 「国民との科学・技術対話」推進に関する研究支援事業で高校生に向けた講義を実施

10月より本格的に始動した，今年度の「国民との科学・技術対話」推進に関する研究支援事業，通称“ACADEMIC FANTASISTA”。11月に実施した北大生による公開講義と，12月に実施した４名の参加教員による高校での出張講義の様子をお届けします。

（総務企画部広報課）

## 自分の目で体感しよう！物質科学フロンティア

「物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム（ALP）」を受講している北大生６名が，アウトリーチ演習の一環として公開講義を実施しました。実験室で特殊なアルミニウムを使った実験をしたり，発光性の有機錯体を観察したりしました。また，本学で開発された超高強度ゲル「ダブルネットワークゲル」の解説や，理論化学研究室見学も実施しました。プログラムの最後にはコミュニケーションの場を設け，高校生からの進路相談や学生生活に関する質問などに答えました。

受講した高校生からは，「普段できないような実験ができて楽しかった」「また見学したいと強く思ったし，北大生に憧れました」といった声がありました。講師役を務めた学生は，「高校の化学とは直結しない内容もあり不安でしたが，実験中には笑顔も見られるなど，満足してもらえたようで安心しました」と話してくれました。学生たちの素晴らしいチームワークで高校生を魅了する時間となりました。

■日　　時：11月27日（火）14:30-16:30
■会　　場：北海道大学 工学部 フロンティア応用科学研究棟
■参加生徒：立命館慶祥高等学校　２年生15名
■講　　師：小澤　友（総合化学院 総合化学専攻 有機元素化学研究室 M2）
高橋　里奈（総合化学院 総合化学専攻 有機元素化学研究室 M2）
佐藤　優樹（総合化学院 総合化学専攻 界面電子化学研究室 M2）
張　曄（生命科学院 生命科学専攻 ソフト&ウェットマター研究室 M2）
杉山　佳奈美（総合化学院 総合化学専攻 理論化学研究室 M2）
島尻　拓哉（総合化学院 総合化学専攻 有機化学第一研究室 M2）
（ALP担当教員）：
北原　圭（理学研究院 特任助教）
大津　珠子（理学研究院 特任准教授）

学生たちから自己紹介も

“撥水”の実験の様子

終始なごやかな雰囲気でした

講義の最後に全員で

## ダニが持つ人獣共通感染症を防げ！～道民に意外と身近な危機～

一昨年，道内の70代男性が死亡したことで世間を騒がせた「ダニ媒介性脳炎（TBE）」。好井健太朗准教授の研究グループでは，国内のダニがウイルスを保有していること，それが動物や人に感染していることを調査し，国内にTBEウイルスが存在することを明らかにしました。ダニの捕獲調査に使う道具や，野ネズミの抗体調査に用いるトラップなどを生徒たちも手にとって，和気あいあいとした様子でした。

TBEについて解説する好井准教授

■日　　時：12月７日（金）16:40-18:20
■会　　場：北海高等学校
■参加生徒：１年生24名
■参加教員：好井　健太朗（獣医学研究院 准教授）

## 絶対零度の世界

絶対零度とは，熱力学的に考えうる最低温度（−273.15℃）のこと。網塚　浩教授の指導のもと，身の回りのものを液体窒素につける実験や，超伝導体を使った実験をしました。生徒からは，「お話も実験もすごく面白かったです！ぜひ毎週来て欲しいと思いました」「大学での勉強の憧れとなり，良い刺激を受けさせて頂きました。先生の温厚な人柄にも惹かれました」などの感想がありました。

超伝導体を使った実験の様子

■日　　時：12月10日（月）15:45-17:00
■会　　場：札幌光星高等学校
■参加生徒：１年生39名
■参加教員：網塚　浩（理学研究院 教授）

## 昆虫が超高速の運動を生みだすカラクリ

青沼仁志准教授が二度目の講義を実施しました。昆虫の模型やCTスキャン映像を見せながら，昆虫の素早い動きについて紹介しました。受講した生徒からは，「自然界では，人間がつくり出すのが難しいことが，たくさん行われていると知り驚きました」といった声がありました。

生徒からの質問に答える青沼准教授

■日　　時：12月13日（木）15:50-17:20
■会　　場：北海道札幌北高等学校
■参加生徒：１年生12名，２年生５名
■参加教員：青沼　仁志（電子科学研究所 准教授）

## 文字記録を残さなかった人々の歴史を考古学によって復元する

高瀬克範准教授も今年二度目の講義です。「考古学を通して歴史を学ぶことで，未来を生き抜くための教訓を得ることができます」と語りかけました。生徒からは，「考古学研究で現代につなげられることが多くてすごいと思った」「歴史が嫌いで仕方がなかったが，学ぶ大切さがわかったので，もっと真剣に学ぼうと思う」といった感想が寄せられました。

熱心に聞き入る生徒たち

■日　　時：12月21日（金）16:40-18:20
■会　　場：北海高等学校
■参加生徒：１年生27名
■参加教員：高瀬　克範（文学研究科 准教授）

# Science Lecture 2018「え?こんなモノがあんな生き物から!? ～生き物にまねる，新たなモノづくり バイオミメティクス～」を開催

大原教授の案内で標本庫を見学

12月22日（土），本学総合博物館において，今年二度目の開催となるScience Lectureを，小中高生を対象として開催しました。テーマは「バイオミメティクス」。生き物の巧みな機能づくりに学んで，新たな科学・技術を生み出そうとする学問です。前半は２名の講師によるレクチャー，後半は普段は入ることのできない館内の標本庫の見学や実験をしました。

冒頭に，西井準治理事・副学長，電子科学研究所の中垣俊之所長，読売新聞北海道支社の西嶌一泰支社長より挨拶がありました。また，司会のCoSTEP古澤輝由特任助教から，Science Lectureのアイディアのもととなったイギリスの歴史的な科学イベント，クリスマスレクチャーの紹介がありました。

１人目の講師は昆虫標本分類学，資料保存学などを専門としている，総合博物館の大原昌宏教授（副館長）。同博物館には，およそ350万点の資料が所蔵されています。大原教授のプロジェクトでは，それらの資料をバイオミメティクスの“気づきのきっかけ”として活用することを目指し，昆虫標本をデータベース化する取り組みを行っています。続いて，高分子化学やナノサイエンスを専門としている電子科学研究所の居城邦治教授（副所長）により，バイオミメティクスの実例を用いた解説がありました。居城教授は，「自然は，この世界にどのような設計があるのかを教えてくれます。21世紀は生物とナノ，生物とITをかけ算していくことが求められています」と語りかけました。

レクチャーの後は３つのグループに分かれ，交代で観察や実験をしました。昆虫標本室では，モルフォチョウやカブトムシなどの標本を観察し，植物標本庫では，北方生物圏フィールド科学センター植物園の佐藤広行博士研究員の案内で見学をしました。３つ目のグループでは，電子科学研究所の与那嶺雄介助教のもと，ハスの葉の撥水効果を活かしたアルミテープの実験などを行いました。

中垣所長から最後に，「複合領域で世の中をつくっていくことの重要性を感じていただけたかと思います。科学は外の世界にも変化をもたらしますが，『知りたい！』『分かって嬉しい！』という喜びは私たちの心の中までも満たしてくれます」と参加者に語りかけました。

私たちのすぐそばに存在する生物たちに目を向けて，自然界のルールや構造に学び，自然と共存していく，それが結果として科学・技術のさらなる発展へと繋がることが学べる１日となりました。

（総務企画部広報課）

西井理事・副学長

中垣所長

西嶌支社長

司会を務めた古澤特任助教

## Science Lecture 2018
### 「え？こんなモノがあんな生き物から！？～生き物にまねる，新たなモノづくり バイオミメティクス～」

日　時：12月22日（土）13:00-15:00
会　場：北海道大学 総合博物館 1階ホール 知の交流　他
講　師：居城　邦治（電子科学研究所 副所長・教授／国際連携研究教育局 教授）
　　大原　昌宏（総合博物館 副館長・教授／大学院農学研究院 教授）
　　与那嶺　雄介（電子科学研究所 助教）
　　佐藤　広行（北方生物圏フィールド科学センター植物園 博士研究員）
司　会：古澤　輝由（CoSTEP 特任助教）
参加者：小中高生・一般 42名
主　催：北海道大学電子科学研究所，北海道大学総合博物館，読売新聞北海道支社
協　力：北海道大学総務企画部広報課
　　北海道大学科学技術コミュニケーション教育研究部門（CoSTEP）
連　携：TERRACE-科学とアートが出会う場所-
後　援：札幌市教育委員会

様々な電子顕微鏡画像を紹介する大原教授

バイオミメティクスについて解説する居城教授

# 北海道大学アンバサダー・パートナー（ベトナム）委嘱状交付式等を開催

１月９日（水），ベトナム・ハノイにおいて，ベトナム北海道大学アンバサダー，幾島章仁氏及び北海道大学パートナー，寺本二憲氏に対して，委嘱状の交付を行いました。

幾島氏は1994年に本学歯学部を卒業後，2009年４月より３回のベトナム歯科ボランティアに参加したことをきっかけに2016年７月より「ハノイ三国歯科」設立メンバーとして赴任，2018年９月よりハノイ三国歯科グループのベトナム代表として活躍するとともに，ベトナム国立チャービン大学の講師を務めています。

寺本氏は1981年に本学工学部・資源開発工学科を卒業後，道内企業に入社。長年ベトナムへの技術協力に携わったことをきっかけに，2012年４月より日本国際協力機構（JICA）ベトナム事務所にてベトナム法整備プロジェクト・業務調整員として採用され，ハノイに赴任，現在に至っています。

両氏は本学同窓会である「ハノイエルム会」の会長並びに会長代理をそれぞれ務められており，本学に留学の決まったベトナム人学生の壮行会を開催したり，新渡戸カレッジの海外インターンシップ生との懇親会を開催したりと，本学のベトナムでの活動に協力していただいてきました。

委嘱式はハノイエルム会のみならずベトナム人同窓生及び本学と協働する研究機関等の関係者が見守る中，日本人だけでなくベトナム人の関係者からも暖かな拍手を送られ，終始温かな雰囲気で執り行われました。

また，この機会に，ホーチミンでも，サイゴンエルム会のメンバー及びベトナム人同窓生との懇親会がもたれ，ベトナムにおける同窓生とのネットワーク強化が図られました。

今回の委嘱及び懇親会を機に，今後ハノイに開設が予定されている本学ASEANオフィスとベトナムにおける本学同窓会等の連携により，ベトナムをはじめとするASEAN諸国における本学協定校を中心とした学術・研究機関と本学との，ラーニングサテライトやサマー・インスティテュート等を通じた教育・研究交流活動の推進がますます期待されます。

（総務企画部広報課）

幾島北海道大学アンバサダー（右）

寺本北海道大学パートナー（右）

ハノイエルム会会員とベトナム人同窓生等との記念撮影

サイゴンエルム会会員とベトナム人同窓生等との記念撮影

# 平成30年度北海道大学ユニバーシティ・アドミニストレーター育成講座を実施

総務企画部人事課では，本学事務職員の一層の人材育成を図るため，「北海道大学ユニバーシティ・アドミニストレーター育成講座」を実施しました。

本育成講座は，事務職員の企画力を醸成し，総長ガバナンスを推進する体制を強化するとともに，総長室及び運営組織等における教員との協同体制を充実させることを目的としており，事務局各部長から推薦を受けた事務職員９名を本年度の受講生として決定し，学務，研究，国際の３つのグループに各３名の編成でそれぞれの課題に取り組みました。

９月27日（木）の開講にあたっては，関　靖直理事・事務局長による開講挨拶及び全体講義が行われ，その後約３ヶ月にわたって，グループ毎に指導担当部長（河本雅弘学務部長，長谷川康弘研究推進部長，島竜一郎国際部長）のもと，受講生は本学の現状等に基づくケーススタディに関して説明を受けた後，課題解決に向けた新たな企画提案プロジェクトについて検討を重ねました。この間，各グループでは指導担当部長を交えたディスカッションのほか，受講生が自主的に情報収集や意見交換を行うなど，それぞれの課題に積極的に取り組みました。また，昨年度の本講座の修了生がその経験を活かしてサポート役として参画し，グループ別検討はより一層充実したものとなりました。

12月11日（火）に開催した全体発表では，長谷川晃理事・副学長をはじめ，理事及び事務局の部課長等が多数聴講する中，これまでの取組の集大成として，各グループが企画提案プロジェクトを発表するとともに，理事等からの質問に対して受講生が応えるなど，活発な質疑応答が行われました。最後に長谷川理事・副学長から全体を通した講評があり，受講生９名全員が本講座を修了しました。

（総務企画部人事課）

関理事・事務局長による開講の挨拶

プレゼンテーションの様子

質疑応答の様子

長谷川理事・副学長による講評

# 新渡戸学「フェローゼミ」の全体発表会を開催

来場者全員での記念撮影

表彰式の様子

新渡戸カレッジでは，12月９日（日）高等教育推進機構大講堂において，新渡戸学「フェローゼミ」全体発表会を開催しました。

本学の同窓生等からなるフェローが担当する新渡戸学「フェローゼミ」は，新渡戸カレッジのプログラムの一環として平成28年度から開講されており，同カレッジ１年目学生（１・２年生）対象の必修科目です。今年度は，下記10テーマのゼミが開講され，各ゼミにつき20名程度のカレッジ生が受講しました。授業では５名程度のチームを作り，フェローや支援教員等とともに現地視察を行い，設定された課題に，チームとして解決策を検討しました。また，高大連携の一環として札幌市や近郊の高校生が毎回熱心にフェローゼミを聴講していました。

授業の最後に実施した全体発表会では，各ゼミから選ばれた10チームがコンペ形式で発表を行い，各チームの発表に対して活発な質疑応答が行われました。審査の結果，上位３チームとフェローゼミ履修生の投票による学生大賞が選定・表彰され，各チームの代表者にトロフィー，カップが手渡されました。なお，学生大賞のチームは本年５月11日（土）に実施予定の入校式で，上位３チームは同日午後に実施予定の新渡戸Dayでそれぞれプレゼンテーションを行う予定です。

また，10チームの発表終了後には今年度から始まったアドバンスト・フェローゼミの発表が行われ，フェローゼミ履修生は先輩方の発表内容に熱心に耳を傾けていました。

（学務部教育推進課）

### 平成30年度新渡戸学「フェローゼミ」テーマ一覧

1．グローバリゼーションの終焉の中での我が国の安全保障（石川裕一フェローゼミ）
2．酪農・乳業事業へのアプローチ提案と地域活性化（伊藤　慎フェローゼミ）
3．文化による地域振興・観光促進（大西裕子フェローゼミ）
4．北海道の産業の将来を考える―トヨタ北海道（株）から学ぶ（小林浩治フェローゼミ）
5．北海道の水産業の明日を考える（重田親司フェローゼミ）
6．持続可能な「生産空間」の形成（柴田哲史フェローゼミ）
7．高大接続とJETプログラム参加者を活用する地域振興策の立案（多田幸雄フェローゼミ）
8．日本の刑務所の歴史と現状，課題は何か（玉城英彦フェローゼミ）
9．札幌市の観光・MICE事業におけるボランティア活動の役割（長岡宗男フェローゼミ）
10．スタートアップ（起業）を通して「未来の生き方」を考える（廣重勝彦フェローゼミ）

### 全体発表会審査結果

第１位：玉城英彦フェローゼミ
第２位：多田幸雄フェローゼミ
第３位：石川裕一フェローゼミ
学生大賞：重田親司フェローゼミ

発表の様子

会場全体

# 人材育成本部上級人材育成ステーションS-cubicで第37回「赤い糸会&緑の会」を開催

人材育成本部のS-cubicでは，11月30日（金）に学術交流会館にて本年度第３回「赤い糸会＆緑の会」を開催しました。

本会は，企業と若手研究者（DC，PD）との直接情報交換会であり，企業には若手研究者の高い専門性や総合力を理解いただき，若手研究者には企業の研究開発活動や企業における博士の活躍状況等を知ってもらうことで，相互理解を深め，視野の複線化，活躍フィールドの拡大を図ることを目的としています。

今回で「赤い糸会＆緑の会」は通算37回目の開催となり，若手研究者の参加も回を重ねるにつれ増加し，12部局から48名（DC47名，PD1名）が参加，また，平成26年度末より採択された科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業で，他大学から若手研究者３名（東北大学１名，お茶の水女子大学１名，立命館大学１名）も参加しました。企業からは，総勢58名（各種業界17社（44名），オブザーバ企業１社，オブザーバ大学４校）にご参加いただきました。

本会では，冒頭の人材育成本部長の笠原正典理事・副学長による開会挨拶，赤い糸会担当の樋口直樹特任教授による趣旨説明の後，参加企業の皆様から業界動向や博士の活躍状況等の紹介が行われ，その後，若手研究者の自己紹介ポスター発表，企業ブースを訪問しての個別情報交換等が活発に行われました。さらには，この「赤い糸会＆緑の会」を通じて企業に就職した若手研究者の先輩方が今回の企業説明会に７名参加し，後輩達に対して熱い思いを語ってくれました。

開催後の企業側のコメントからも，「ポテンシャルを感じる学生との出会いがあり，有意義であった」「効率的に博士課程の学生の研究，人柄を知り，企業アピールの出来るシステムで大変助かっています」との声をいただくことができました。また参加した若手研究者からは，「一度に複数の企業と交流出来て有意義でした。また，企業の意外な一面を見ることができ，就職でエントリーする企業の幅が出来た」「就活だけではなく，人生観を変えるという面でも良い機会です」といった嬉しい声も聞かれました。

人材育成本部では上記の活動に加えて，企業事業所視察，Advanced COSA，J-window，キャリアパス多様化支援セミナー，キャリアマネジメントセミナー，企業での長期インターンシップ等を通して，これまで以上に若手研究者の実践力を高めることへ注力して参ります。また，コンソーシアム結成により，東北大学や名古屋大学等が運営している，より多くの洗練されたプログラムも博士達に活用されています。

興味のある方は人材育成本部のホームページを是非ご覧ください。

◆http://www2.synfoster.hokudai.ac.jp

（人材育成本部）

笠原人材育成本部長の開会挨拶

樋口人材育成本部特任教授の趣旨説明

企業からの業界動向説明

説明に聞き入る若手研究者

若手研究者のポスター発表

企業との個別情報交換

# 高等教育研修センターにて研修会を開催

高等教育推進機構高等教育研修センターでは，11～12月に以下のとおり研修会を開催しました。

（高等教育推進機構）

## ワークショップ「相手に伝わる説明力を身につける」 参加者：36名

開 催 日：11月２日（金）
開催場所：情報教育館３階スタジオ型研修室
開催概要：聞き耳が立つ話の組み立て方や話の展開などの「表現力」，聴き手との壁をなくし相手にしっかり届く声やスピードなどの「話す技術」，また「言葉以外で大切なこと」など，相手に伝わる説明力向上につながるスキルの習得を目的として開催した。

ワークショップ「相手に伝わる説明力を身につける」

## ELMS講習会～授業でELMSを活用する～【入門編】 参加者：4名

開 催 日：①11月２日（金）
②11月14日（水）
開催場所：高等教育推進機構２階212教室
開催概要：ELMSの運用・管理を担当しているオープンエデュケーションセンターの職員による指導のもと，実際に操作しながら，Moodleを含めた活用事例等を学び，ELMSを今後活用していくことを目的として開催した。

ELMS講習会～授業でELMSを活用する～【入門編】

## 第37回北海道大学教育ワークショップ「アクティブラーニング型授業の実践」 参加者：15名

開 催 日：11月９日（金）～11月10日（土）
開催場所：北広島クラッセホテル
開催概要：授業を構成するために必要な教育の基礎を理解すること，アクティブラーニング型授業を設計する方法を理解した上でシラバスを作成できること，異分野の研究者と教育について語り刺激し合うことを目的として開催した。

第37回北海道大学教育ワークショップ
「アクティブラーニング型授業の実践」

## 事務職員のためのプレゼンテーション入門研修　参加者：5名

開 催 日：11月23日（金・祝）
開催場所：情報教育館３階スタジオ型研修室
開催概要：プレゼンテーションが苦手な方や基礎を学びたい方を対象にプレゼンテーションの基本的な知識・技術・心構えを身につけるための入門研修として開催した。大学説明会や事業説明会などのプレゼンで使用するPowerPoint等のスライドを取り上げた。

事務職員のためのプレゼンテーション
入門研修

### 平成30年度北海道地区大学SD研修「大学職員セミナー」　参加者：27名

開 催 日：11月26日（月）～11月27日（火）
開催場所：情報教育館３階スタジオ型研修室
開催概要：①職場である大学を日常業務の立場から少し離れた視点で捉え，②現場で起きている様々な問題の背景，改革の方向などについて考え，③他の参加者や講師と議論しながら今後の課題を探っていくことを目的として開催した。

平成30年度北海道地区大学SD研修
「大学職員セミナー」

### 講演会「Institutional Researchへの理解と組織構築～継続的な改善活動による意思決定支援に向けて～」　参加者：48名

開 催 日：12月７日（金）
開催場所：情報教育館３階スタジオ型研修室
開催概要：IRと教育の内部質保証，大学の中長期計画等といったものがどのように関連を持って活動するか等について，東北学院大学での実例を基にお話いただいた。参加者の各大学に適したIR組織の構築と運用を考えるきっかけとすることを目的として開催した。

講演会「Institutional Researchへの理解と組織構築
～継続的な改善活動による意思決定支援に向けて～」

### シラバスのブラッシュアップ研修　参加者：3名

開 催 日：12月８日（土）
開催場所：情報教育館３階スタジオ型研修室
開催概要：授業計画を立てるための目標設定，目標到達へと導くための評価方法を学び，講師や他の参加者からのフィードバックを受けながら，自分のシラバスをブラッシュアップすることを目的として開催した。

シラバスのブラッシュアップ研修

### プレゼンテーション入門研修　参加者：7名

開 催 日：12月15日（土）
開催場所：情報教育館３階スタジオ型研修室
開催概要：プレゼンが苦手な方や基礎を学びたい方を対象に，伝わるプレゼンテーションを行うにあたり，自分にとって必要な課題はなにかを見つけることを目的として開催。スライドを使った口頭発表やポスターを扱い実践形式の研修を行った。

プレゼンテーション入門研修

### ハラスメント防止研修会「大学の場で被害者も加害者も出さないために」第1回「教員－学生間のハラスメント　参加者：6名

開 催 日：12月17日（月）
開催場所：情報教育館３階スタジオ型研修室
開催概要：「教員－学生間のハラスメント」をテーマに，ハラスメント相談員の視点からみた北海道大学のキャンパス・ハラスメントの現状と予防策を知ることを目的として開催した。少人数での研修はディスカッションを中心として行った。

ハラスメント防止研修会「大学の場で被害者も
加害者も出さないために」

# 「スマートデバイス・計測・新技術説明会」を開催

国立研究開発法人科学技術振興機構と産学･地域協働推進機構は，11月29日（木）にJST東京別館ホール（東京･市ヶ谷）において，特許庁・関東経済産業局・室蘭工業大学・帯広畜産大学・北海道立総合研究機構とともに「スマートデバイス･計測･新技術説明会」を開催しました。

本新技術説明会は，本学が主催者となり，北海道地区の大学･公設試のスマートデバイス･計測系の特許技術シーズを集め，研究者が自らの特許技術について実用化を展望した技術説明を行うことで，事業化及び共同研究を希望する企業等と産学連携マッチングを図るイベントです。本学では，平成22年度から北海道地区の他大学･高専･公設試等と連携して開催しており，今回で９回目の開催となりました。今回は１日で８件の講演発表（本学研究者からの講演発表５件）がなされ，来場者数142名，技術個別相談件数９件，名刺交換数61件と例年通りの盛況な会となりました。今回引き合いを受けた企業様に継続的なフォローを行い，今後の技術移転活動に反映させて参ります。

（産学･地域協働推進機構）

新技術説明会の様子

電子科学研究所　玉置信之教授

工学研究院　山本拓矢准教授

保健科学研究院　鷲見尚己准教授

電子科学研究所　三澤弘明教授

工学研究院　原田宏幸准教授

# サステイナブルキャンパスマネジメント本部「実験施設に特化した省エネ対策報告会」を開催

サステイナブルキャンパスマネジメント本部では，10月31日（水），百年記念会館大会議室において「実験施設に特化した省エネ対策報告会」を開催しました。

本報告会は，ユニバーシティ・カレッジ・ロンドンなど，英国の教育・研究機関で実験施設に特化した省エネ・省資源プロジェクトを展開しているマーティン・ファーレイ氏（Green Lab Associates代表）の来学により実現したもので，学内外から22名の参加者がありました。

報告会では，最初にファーレイ氏から講演があり，Reproducibility（再現性。実験結果の信頼性を表す指標）を用いて，科学者の研究活動が社会の持続可能性に深く関係しているという説明がありました。これは，ファーレイ氏が実験施設に特化した省エネ・省資源活動を進める動機となっているとのことでした。さらに，英国で実際に手がけている，超低温フリーザーの設定温度と試料の保存状態の関係を検証するプロジェクトや，実験室から出る廃棄物の分別を推進するチームを研究室で立ち上げた成果など，具体的な取り組みをご紹介いただいた後，前々日に見学した地球環境科学研究院及び理学研究院の研究室への省エネ・省資源対策のアドバイスをご紹介いただきました。

講演の後，質疑応答があり，高効率フリーザーや省エネ機器への更新のインセンティブ，実験機器の引継ぎのためのガイドラインの必要性，少人数でも良いのでできることから始めるチームづくりの秘訣などについて，意見が交わされました。

今後これらの知見に基づき，サステイナブルキャンパスマネジメント本部に設置されているキャンパスマネジメント専門委員会において，有効な対策を検討していく予定です。

（サステイナブルキャンパスマネジメント本部）

講演するファーレイ氏

報告会の様子

# 国際連携研究教育局（GI-CoRE）量子医理工学グローバルステーションがフローニンゲン大学と4次元粒子線治療ワークショップを共催

参加者集合写真

12月7日（金）・8日（土）に，国際連携研究教育局（GI-CoRE）量子医理工学グローバルステーション（GSQ）とオランダフローニンゲン大学が4次元粒子線治療ワークショップを共催しました。本ワークショップは2009年より毎年欧州で開催されていますが，記念すべき第10回目は本学での開催となりました。

2日間に亘った本ワークショップでは本学教員に加え，MDアンダーソンがんセンター，ポール・シェラー研究所，スタンフォード大学，シドニーメディカルスクール，ユトレヒト大学メディカルセンター，フローニンゲン大学，エコール・サントラル・パリ，放射線医学総合研究所，九州国際重粒子線がん治療センター，筑波大学から世界トップレベルの研究者を招き，粒子線治療や4次元放射線治療における最先端の研究についての講演が行われました。各講演後の質疑応答の時間では，参加者からの多くの質問や意見が出され活発な議論が交わされました。

また，ワークショップ初日に行われたポスターセッションでは13の演題登録があり，各々の研究に関し積極的な意見交換が行われました。

オーストラリア，オーストリア，フランス，ドイツ，イタリア，日本，韓国，オランダ，ポーランド，スイス，台湾，イギリス，アメリカから総勢70名が参加した国際色豊かなワークショップは，研究発表や議論の場のみならず，参加者及び講演者間の交流を深める大変有意義な場となりました。

（国際連携研究教育局）

フローニンゲン大学　Knopf准教授の講演

講演の様子

ポスターセッションの様子

# 国際連携研究教育局（GI-CoRE）ビッグデータ・サイバーセキュリティグローバルステーション（GSB）が「ビッグデータ・サイバーセキュリティ・IoTに関する国際シンポジウム」を開催

国外招へい者とシンポジウム関係者（GI-CoRE GSBのメンバー（一部））

12月20日（木）・21日（金）の２日間，GI-CoRE GSB 主催による「ビッグデータ・サイバーセキュリティ・IoTに関する国際シンポジウム」を開催しました。

GI-CoRE GSBが主催で，テーマをビッグデータ・サイバーセキュリティ・IoTに絞った国際会議は本シンポジウムが初めてであり，国外の研究者からの基調講演と，リサーチアシスタント（RA，博士後期課程学生）からの一般講演などで構成され，国内外から約80名の参加がありました。

基調講演では，国外６名の研究者から，本シンポジウムのテーマに関する最新の研究紹介が行われました。

第１日目は，GI-CoRE GSB連携大学の一つである，オーストラリア・シドニー工科大学（UTS）のEryk Dutkiewicz教授から，「Research into Internet of Things (IoT) at UTS」と題して，同大学におけるIoT実証実験についての講演が行われました。その後，フィリピン共和国・デラサル大学のElmer Dadios教授から，「Big Data and Internet of Things for Swarm Flying Robots」と題したIoT関連の講演，UTSのRen Ping Liu教授から，「IoT and Blockchain: Technologies, Challenges, and Applications」と題して，サイバーセキュリティに関する講演が行われました。学外からは，在札幌オーストラリア領事館のロナルド・グリーン領事のほか，多数の参加がありました。

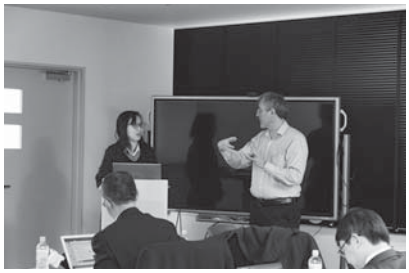
第２日目は，UTSのXiaojing Huang教授から，次世代無線通信にかかわるテーマで，「Towards Terabit Wireless Communications」，タイ王国・チュラロンコン大学のSupavadee Aramvith准教授からは，ビデオIoTに関するテーマで，「Video Analytics for Surveillance IoT Applications」，最後に，UTSのDiep Nguyen講師からは，サイバーセキュリティのテーマで，「Coping with Cyber Security Threats using Game Theory and Artificial Intelligence: Recent Advances and Challenges」の講演などが行われました。さらに，RAからの研究発表が多数実施されました。

２日間を通じて，活発な意見交換や討論が行われ，関連分野の研究者のみならず，参加したRAや学部学生にとっても非常に有意義なシンポジウムとなりました。

（国際連携研究教育局）

Elmer Dadios教授の講演

Supavadee Aramvith准教授の講演



学生発表風景。Eryk Dutkiewicz教授がセッションの座長を担当。

# 歯学研究院・歯学院・歯学部が国立陽明大学と部局間交流協定等を締結

歯学研究院・歯学院・歯学部は，12月18日（火）に台湾の国立陽明大学牙醫学院と部局間交流協定及び学生交流に関する覚書を締結しました。

歯学研究院で開催された調印式には，国立陽明大学からはMing-Lun Hsu学院長ほか２名が，本学からは八若保孝歯学研究院長，網塚憲生歯学研究院副研究院長，鄭　漢忠教授の３名が出席しました。

国立陽明大学は，1994年に設立された比較的新しい大学ですが，台湾教育部からトップ大学計画の12校に選定されております。

本学では，医学研究院・医学院・医学部がすでに交流を進めているところですが，本協定等により，国際共同研究の実施や教育研究における交流連携が一層推進されることが期待されます。

（歯学院・歯学研究院・歯学部）

調印後のHsu学院長（左）と八若研究院長（右）

調印式参加者の集合写真

施設見学の様子

# 洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会と相互協力協定を締結

総合博物館では，12月18日（火），洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会と，相互の発展に向け，連携・協力関係を深めることを目的として，相互協力協定を締結しました。

調印式には，洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会から，真屋敏春会長（洞爺湖町長），村井洋一副会長（豊浦町長），菊谷秀吉監事（伊達市長），佐藤秀敏監事（壮瞥町長），総合博物館からは中川光弘博物館長，山本順司准教授が出席しました。

洞爺湖有珠山ジオパークは，洞爺湖と有珠山を中心に，火山が作りだした地質景観，災害との共生や縄文遺跡等，地域の歴史文化的側面を見所としたユネスコ世界ジオパークに認定されている地域です。

本協定により，総合博物館では，ジオパークというフィールドを利用した研究活動の広がりが期待されます。また，ジオパークとしては，その地球科学的価値が，学術研究によって保障されることから，総合博物館との連携に大きな意義があります。さらには，双方が行う教育活動や，地域振興への波及，自然災害へのリスク軽減など，多方面への効果が期待されます。

今後は，洞爺湖有珠山ジオパークの普及啓発，地域振興など幅広い分野において連携・協力を進め，相互の発展を目指します。

（総合博物館）

協定書への調印の様子

調印式における関係者集合写真

# 平成30年度薬学部成績優秀賞授与式を挙行

薬学部では，12月14日（金）に本学部会議室において，平成30年度北海道大学薬学部成績優秀賞授与式を行いました。

この賞は「GPA制度の導入に伴い，学業が優秀な学生を顕彰し，学生の向学心を喚起する」ことを目的として，平成17年度以降に入学した学部３年次生を対象として設けられたもので，今回で12回目の授与式となります。

今年度は，学部専門科目の成績が特に優秀な３名が受賞者に選ばれました。

授与式では，薬学部教員が見守るなか，木原章雄薬学研究院副研究院長から表彰状と記念品が１人ひとりに授与されました。今後もこの賞が本学部学生の向学心をより一層喚起するものとなることを期待しています。

（薬学部）

成績優秀者と木原副研究院長（左から2番目）

表彰状を授与される成績優秀者

# 観光学高等研究センター公開講座「観光研究者が語る『私の旅』」が終了

観光学高等研究センターでは，平成30年度公開講座「観光研究者が語る『私の旅』」を，11月１日から12月13日までの毎週木曜日，全７回にわたり実施しました。

今回の公開講座は，これまでのように一つのテーマを設定するのではなく，各観光研究者が自らの旅のエピソードを紹介しながら，そこからどんな観光学のヒントを得てきたかについて，専門的な視点から解説を加えるという企画で実施しました。

第１回は，上田裕文准教授が「ペルシャの風景を旅して」と題して，日本ではあまりイメージできないイランの風景を，ランドスケープ研究者の視点から紹介し，西欧庭園の源流ともいえるペルシャ式庭園について解説しました。

第２回は，山村高淑教授が「旅先で味わう詩，文学，映画」と題して，「アルプスの少女ハイジ」「赤毛のアン」「魔女の宅急便」などの児童文学作品，それらを原作としたアニメ作品を中心に取り上げ，目の前の風景が作品世界に変わる旅の楽しみ方について講じました。

第３回は，下休場千秋教授が「無形文化遺産を巡る旅から」と題して，国内やアフリカ各地における祭りや伝統工芸といった民族芸術や無形文化遺産を巡る旅について紹介し，自然と人間による生命の営みの意味や人びとの自然観の多様性について講じました。

第４回は，石黒侑介准教授が「客層から考える観光地の『売られ方』」と題して，スペインとメキシコを例に，テレビ番組や旅行会社のチラシではなく，旅先で出会った観光客を見ながら次の旅先を決める旅行スタイルについて講じました。

第５回は，清水賢一郎教授が「歴史の地下水脈をたどる旅―台湾から」と題して，台湾を舞台に，都市の地層に目をこらして見えない地下水路を探る旅について紹介し，札幌の街との歴史的なつながりについて講じました。

第６回は，木村　宏特任教授が「心のクレーマー：旅先で心から楽しめない私の視点」と題して，旅人を受け入れる観光地域においてホスト側が旅人をどのようにもてなしているかの事例を紹介しながら，「旅人を楽しませる」とは何かについて講じました。

第７回は，西山徳明教授が「『ホンモノ』に出会う旅」と題して，ディズニーランドの例を紹介しながら，世界遺産の寺院や国宝の仏像を見に行く旅との比較を通じて「ホンモノのテーマパーク」について講じました。

教科書や普段の講義ではあまり語られない研究活動の裏話が多く紹介され，会場も打ち解けた雰囲気での公開講座となりました。昨年を大きく上回る47名の受講者があり，大好評の内に終了することができました。来年度もよりよい公開講座を開講することを目指し，これから企画を考えていきたいと思います。

（観光学高等研究センター）

講義風景

修了証書の授与

# スラブ・ユーラシア研究センター2018年度冬期国際シンポジウム「帝国・ブロック・連邦にそびえる言語 1918-2018」開催

シンポジウムの参加者

討論の様子

12月13日（木）・14日（金）に国際シンポジウム「帝国・ブロック・連邦にそびえる言語 1918-2018」を開催しました。2018年は東欧諸国にとって記念すべき年で，チェコスロバキア第一共和国，ポーランド独立回復，セルビア人・クロアチア人・スロベニア人王国（いわゆる「第一のユーゴスラビア」）建国からちょうど100年にあたります。これらの国々は，第二次世界大戦の後に社会主義を経験し，20世紀末にはいわゆる東欧革命によって民主化が進みました。共通点は多いものの，その過程は決して一様ではなく，場合によっては戦争を経験するなど，大変劇的な一世紀であったと言えます。

いうまでもなく，このような社会変化は現地の人々に多様な影響を与え続けてきたわけですが，本シンポジウムでは，その影響が表れる領域の一つとして，これらの国々で話されている言語に注目し，社会変化がもたらした言語状況の変化，言語構造そのものの変化を分析する研究報告が行われました。共通論題として「言語政策と言語計画」「言語パターンの多様化」「言語接触と言語変化」の三点が取り上げられました。参加者はヨーロッパ，北アメリカ，日本で活躍する世界トップクラスの研究者で，言語がトピックであり，社会言語学が主要な枠組みではありますが，言語学者だけではなく，歴史学者，社会学者，政治学者，文化人類学者などが参加し，本シンポジウムは学際的な言語研究の実践の場として，活発な意見交換が行われました。

参加者は２日間で延べ105名（うち外国人は36名）に上り，道外からも多くの来場者があるなど，本シンポジウムは広い関心を集めたようです。

（スラブ・ユーラシア研究センター）

# 公開FD講演会「SDGs勉強会in北大vol.001」を先端生命科学研究院・理学研究院で開催

先端生命科学研究院・理学研究院では，ファカルティ・ディベロップメントFD講演会を兼ね，12月６日（木）に総合博物館N308室にて「SDGs勉強会in北大vol. 001」を一般公開で開催しました。

## 学内外の多数の組織から参加

参加数66名（学内52［教職員48名，学生４名］，学外14名［企業・団体等11名，他３名］）。本学教職員の参加組織：先端生命科学研究院，理学研究院，農学研究院，工学研究院，文学研究科，教育学研究院，低温科学研究所，北方生物圏フィールド科学センター，観光学高等研究センター，北極域研究センター，サステイナブルキャンパスマネジメント本部，人材育成本部，創成研究機構，URAステーション，附属図書館，学務部国際交流課，国際部国際企画課，国際連携機構。本学学生：理学部，農学部，生命科学院，国際広報メディア・観光学院。

## 開催概要（SDGsに貢献する教育研究へ）

国連持続可能な開発サミットで採択された2030年までの「持続可能な開発目標（SDGs）」は，現在，日本政府，民間企業，大学・研究機関，自治体など様々なステークホルダーの分野を超えた取り組みが広がっています。

一方，経済・社会・環境の側面を持つSDGsは，教育・基礎研究とともに科学技術イノベーション（STI）への期待も大きくなっています。大学等教育研究機関のSDGsへの貢献に注目を集めることが必須の中，文系理系によらず大学人自身の教育・研究へのSDGsの取り組み方や社会の動きについて，さらに理解を深め継続することが重要と考え，今回の「SDGs勉強会in北大vol.001」を企画しました。SDGs活動に詳しい外部講師をお招きし，諸氏の活動の概要紹介を含め，最新情報をご紹介いただきました。第一部最後には，教員や一般参加者から「教育者としてSDGsへの取り組み方」「バックキャスティングの有用性」など活発な質疑応答が行われました。ある教員からは今回の勉強会で「SDGsはもっと気楽に取り組んでも良い」ということに気づいたことは収穫だった一方で，「社会からの発信に気づくアンテナ」が必要であると改めて認識したとの感想が聞かれました。参加者アンケートでは，SDGsイベントvol.002継続開催，学生向けイベント，地域連携，一般公開の拡張，ワークショップなど多数のご要望をいただきました。

「国連持続可能な開発サミット2015」で193カ国が採択した2016-2030「持続可能な開発目標（SDGs）」。環境・経済・社会のつながりを持ち，大学ではESD教育とともに，STI for SDGs, Society5.0 for SDGs施策に関連する様々なステークホルダーの分野を超えた教育研究の取り組みが期待されています。

Hokkaido University
Sustainability Weeks
2007-2017
北大サステイナビリティ・ウィーク（SW）
公式ロゴ

2008年のSW期間中には，世界初のG8大学サミット（札幌）が開催され，国内外27大学が「大学は持続可能な社会実現のための原動力となる」と誓いました。
［本学HP ＞ 国際交流・留学 ＞ 持続可能な社会の実現に向けた取り組み］

2026年（北海道大学創基150年）に向けて「次世代に持続可能な社会を残すため，様々な課題を解決する世界トップレベルの研究を推進する」など５つの達成目標からなる「近未来戦略150」を2014年に策定しました。

## 講演の概要（3テーマ）

**（1）「SDGs達成に取り組む世界の動き」**（講師：SDGs.TV／株式会社TREE 代表取締役：水野雅弘氏。ICTや映像技術を活用した環境普及啓発事業やサステイナビリティ人材育成事業のメディアプロデューサーとして活躍中）

SDGsの17目標は人間の活動が地球システムに及ぼす影響を客観的に評価する方法の一つである地球の限界（プラネタリーバウンダリー）が基本となったこと，世界の危機的状況を考えるとSDGs達成にはビジネスの土俵を変えることが重要であることが世界的な認識となってきたこと，そのためのダイベストメント，ESG投資など効果的な循環経済についても紹介されました。日本の劇的な社会変化や社会課題（少子高齢化など）が多岐に渡る中で，大学の社会的役割や意義・可能性が問われています。社会と繋がる大学を見える化するには，「大学の研究や教育プログラムなどをSDGsのターゲットから統合検索ができるようになると，目標と学びの世界が変わるだろう」とのご提案もいただきました。またSDGsの取り組みは道内でも盛んで，農林水産業などの地方講演，札幌チカホの中高生へのSDGs啓発イベントなども行われ，水野氏も数多く訪問しています。さらに全国イベント（SDGsクリエイティブアワード，札幌開催，2019年３月）など紹介されました。北海道でSDGs達成に向けたアクションを加速させるために，北海道大学の役割や可能性は計り知れないとの期待も述べられました。

**（2）「科学技術イノベーション（STI）とSDGs」**（講師：科学技術振興機構・経理部長（前「科学と社会」推進部長）柴田孝博氏，同機構・経営企画部持続可能な社会推進室・植田奈穂子氏）

科学技術振興機構（JST）では2018年４月１日より「持続可能な社会推進室」を設置し，機構全体でSTI for SDGsを推進しています。柴田氏からは科学技術基本計画等における「科学と社会」の関係からの考察が紹介されました。また植田氏からは，SDGsに対する政府指針，経済界の動向，他大学の取り組み等が紹介されました。内閣府が推進するSDGs未来都市は全国29か所のうち４か所が北海道。文部科学省では，2018年８月に「STI for SDGs文部科学省施策パッケージ」を策定し，異なる施策の有機的連動，多様なステークホルダーとの連携・共創が進められています。JST「持続可能な社会推進室」では，日本のSDGs取り組み事例を紹介するウェブページを作成し，国内外に対して積極的に情報発信を行っています。

**（3）「北大の科学技術研究教育とSDGs，その先の，道へ」**（講師：出村　誠先端生命科学研究院長）

**北海道大学の先駆的な「持続可能な開発」国際戦略2005と近未来戦略150（2014-2026）**

本学は創基150年にあたる2026年に向けて「次世代に持続可能な社会を残すため，様々な課題を解決する世界トップレベルの研究を推進する」など５つの達成目標からなる「近未来戦略150」を2014年に策定しました。この策定に至る開花は，2005年の１粒の小さなタネ（本学の「持続可能な開発」国際戦略策定）に遡ります。その後，2008年G8北海道洞爺湖サミットでは世界経済とともに環境問題・気候変動がクロースアップされました。これに呼応し国内外27の大学・機関による世界初のG8大学サミットが札幌で開催され，「大学は持続可能な社会実現のための原動力となる」と誓いました（札幌サステイナビリティ宣言（SSD）。2007～2016年には北大サステイナビリティ・ウィーク（SW）を毎年開催し，サステイナブル教育が定着しました（2014年まで累計250企画突破15万人参加）。

**SDGsへの取り組みが見える教育**

SW2016は「SDGsに貢献する高等教育のあり方」がテーマとなりました。2005年の１粒の小さなタネが2016年に大きく成長しましたが，SDGsへの貢献という開花・結実に向けて本学の役割がさらに増すことが再認識されました。

また同時期にサステイナビリティ教育検討プロジェクトチームによる「サステイナビリティ教育の在り方について（答申）H29.1.5」が行われ，シラバスにSDGs17目標を設定できる機能追加など教員と学生のSDGsへの意識付けを促す教育環境の改善提案も行われました。

2017年からSWはHokkaidoサマー・インスティテュート（HSI）の開講期間に合わせ，さらに世界と協働する方式に拡大されました。HSIでは，本学全部局が様々な分野・課題・テーマ（100科目以上）を提供し，国際協働が求められるSDGs関連の学習機会を世界へ発信しています。

**研究教育とSDGs，その先の，道へ**

本学の研究事例では世界の課題解決に向けた全部局の構成や研究所・センターの紹介，ESD推進事業や世界の課題解決に挑む学生の主体的活動などが紹介されました。SDG目標９は産業と科学技術の基盤を作る貢献。GI-CoREを始めWPI，COIなどSTI国家研究プロジェクトが将来SDGsの貢献につながる期待，具体例としてソフトマターのコンセプトカー開発や環境負荷低減への期待が紹介されました。「近未来戦略150」に向けた世界トップレベルの研究は，まさに「SDGs未来社会」に貢献することに他なりません。その実現には人材育成そして地域・北海道との連携パートナーの重要性も述べられました。

**謝辞**　今回の企画運営にあたり協力いただきました，附属図書館，人材育成本部・L-station，URAステーション，大学の世界展開力強化事業（PARE, RJE3, STSI），事務局関係課，及び北海道・北海道SDGs推進ネットワーク，環境☆ナビ北海道の関係者皆様に厚く御礼申し上げます。

参考サイト等

［1］https://life.sci.hokudai.ac.jp/fa/event/6049
［2］北海道新聞夕刊掲載（2018.12.10）

（先端生命科学研究院，理学研究院）

SDGs.TV／株式会社TREE　水野氏

科学技術振興機構 柴田氏

科学技術振興機構　植田氏

先端生命科学研究院 出村研究院長

# 生命科学院がアクティブラーニング形式の「Research Ethics Workshop for IGP students（研究倫理ワークショップ）」を開催

12月４日（火），一昨年，昨年度に引き続き３回目の“Research Ethics Workshop for IGP students（研究倫理ワークショップ）”を開催しました。このワークショップは，本学学務部教育推進課とオープンエデュケーションセンターの協力のもと，国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムとして生命科学院が実施する「次世代の生命科学グローバルリーダー養成プログラム（International Graduate Program, Training Program for Global Leaders in Life Science（IGP-GLLS））」が，プログラム学生を対象として実施したものです。先端生命科学研究院・相沢智康教授が講師を務め，受講登録をした学生は，事前に大学院準備教育プログラム用に準備されたe-learning systemの広島大学・眞嶋俊造准教授による「研究倫理」講義を動画視聴し，事前学習により得た知識を活用しながら，与えられた研究倫理に関する課題に取り組むという反転学習形式でのアクティブラーニングを行いました。講義は全編英語で実施され，中国・インド・インドネシアからの外国人留学生14名が３つのグループに分かれることで，ディスカッションが活発に行われました。普段接する機会の少ない様々な研究室の学生が共学することで，知識や考え方を共有するだけでなく，意見を述べる姿勢についても，それぞれの学生が良い刺激受けたことと思います。

開催にあたりご理解・ご協力いただいた指導教員の皆様，ご支援いただいたスタッフの皆様には深くお礼申し上げます。

（生命科学院）

相沢教授による講義の様子

グループディスカッションの様子

# 農学研究院長，国際食資源学院長等がカセサート大学農学部カンペンセン校を訪問

カセサート大学のPabhop Sinchayakul農学部長への表敬訪問
（左：Pabhop Sinchayakulカセサート大学農学部長，右：本学横田農学研究院長）

意見交換会にて発言する井上国際食資源学院長（右）

カセサート大学農学部教員らスタッフと意見交換

12月10日（月）から12日（水）にかけて，横田　篤農学研究院長，井上京国際食資源学院長，ほか教員２名がタイのカセサート大学農学部カンペンセン校を訪問し，農学部長のPabhop Sinchayakul先生らと面談するとともに，同校キャンパス内にある本学のタイ・リエゾンオフィスを視察しました。

本学は，平成29年５月にタイのカセサート大学農学部カンペンセン校内にタイ・リエゾンオフィスを開設し，本学の広報や研究交流の拠点として運用しています。また，平成30年２月には，バンコク市内でリエゾンオフィスの開所式を北海道大学交流デーと共に行い，その中で，本学農学院とカセサート大学農学部とのコチュテルプログラムの協定書の締結式も行いました。

このたびの面談では，複数の教員が参加して意見交換が行われました。まず横田農学研究院長から，リエゾンオフィスの開設と開所式の開催及びコチュテルプログラム協定締結のお礼を，井上国際食資源学院長から北海道大学交流デー開催協力へのお礼を述べた後，農学研究院小林泰男教授（リエゾンオフィス責任者）がこれまでのカセサート大学との交流実績について，スライドを用いて説明しました。

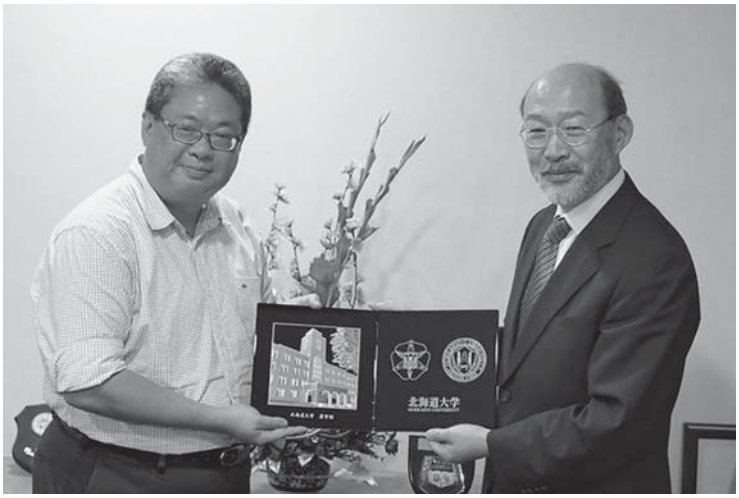
コチュテルプログラムは，カセサート大学から既に１名の受け入れが開始され，今後双方向かつ複数の学生交換が期待されます。さらに，コチュテルプログラムを実のあるプログラムにするために，平成31年３月にはカセサート大学でコチュテルプログラム促進プロジェクトとしてセミナーを行うために，本学教員が再度訪問することになっています。

また，本学の農学院には英語コースを設置していること，国際食資源学院では全ての教育を英語で行っていることから，留学しやすい環境を整えている旨の説明も行いました。両校のますますの交流・連携が期待されます。

（農学院・農学研究院，国際食資源学院）

意見交換会参加者の集合写真。中央左から井上国際食資源学院長，Pabhop Sinchayakul農学部長，横田農学研究院長，小林リエゾンオフィス担当教授，岡本博史准教授

# 農学研究院長，国際食資源学院長等がシンガポール国立大学理学部を訪問




NUS理学部のチュー副学部長への表敬訪問
（左：NUS理学部チュー副学部長，右：本学横田農学研究院長）

面談での意見交換の様子

12月20日（木）に，横田　篤農学研究院長，西邑隆徳農学研究院副研究院長，井上　京国際食資源学院長，岩渕和則農学研究院教授がシンガポールのシンガポール国立大学（NUS）理学部を表敬訪問し，理学部副学部長のチュー・フク・ティム先生，ライ・イー・ヒン先生らと面談しました。面談終了後に開催されたNUS理学部主催夕食会には理学部長のシェン・ヅォウェイ先生も出席されました。

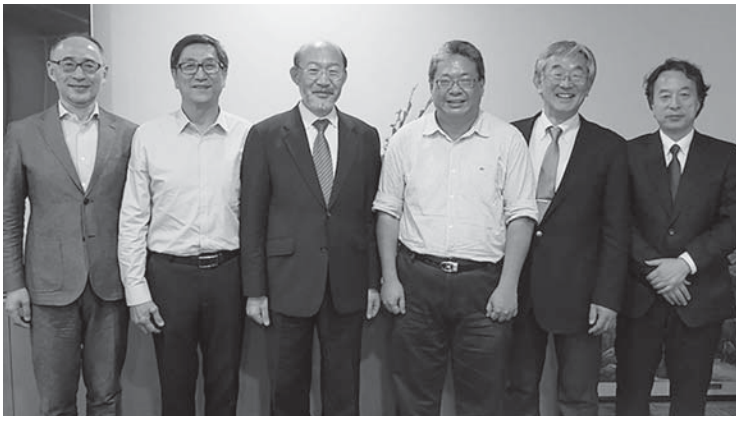
農学院・農学部及び国際食資源学院はNUS理学部と連携し，サマープログラム「Joint Summer Programme in Japan and Singapore」を実施しています。このプログラムは，約10日間の現地開催プログラムとその準備・予習である数日間のe-ラーニングをそれぞれシンガポールと札幌で行うように構成されたシャトルプログラムです。内容としては，地理，歴史，気候などの環境条件を元に地域に積み重ねられた文化であり産業である農業を再度見つめ直し，文化的背景の異なる国同士が食料生産，加工や流通技術などを学び，農業や食への総合的な理解を相互に深め，グローバル化時代における農業のあり方を考えるものとなっています。初回となる平成30年７月実施のプログラムには農学院・農学部・国際食資源学院の学生10名とNUS理学部の学生６名が参加し，両国の事情を比較しながら農業や食についての理解を深めました。

このたびの面談では，まず横田農学研究院長から，サマープログラム実施への協力のお礼を述べた後，農学院・農学研究院・農学部及び本学の紹介を行い，更に農学院の英語特別コースについても説明しました。続いて，平成30年実施分プログラムの振り返りと，次回のサマープログラム実施に向けた意見交換を行いました。最後に，チュー先生よりNUS理学部の活動戦略についてご紹介いただきました。NUS理学部と農学研究院は２年程前よりサマープログラムに関する打合せを開始し，平成30年４月に部局間交流協定を締結して７月にプログラムの実施に至りましたが，それぞれの大学組織全体について紹介しあうのは今回が初めてだったため，互いの大学を知る良い機会となりました。

次回のサマープログラムは，本年８月に札幌，本年12月にシンガポールにおいて，それぞれプログラムを実施することが決定しています。また，農学院・農学部・国際食資源学院とNUS理学部からそれぞれ約10名が参加する見込みです。

今回の訪問を機に，両校のますますの交流・連携が期待されます。

（農学院・農学研究院・農学部，
国際食資源学院）



面談参加者の集合写真。左から，西邑農学研究院副研究院長，NUS理学部ライ先生，横田農学研究院長，NUS理学部チュー副学部長，井上国際食資源学院長，岩渕農学研究院教授

# 農学部学生の撮影写真が株式会社日本政策投資銀行「北海道ハンドブック」の表紙を飾る

本学と株式会社日本政策投資銀行（以下，DBJ）は，平成16年７月に包括連携協定を締結し，これまで研究交流や人材育成に係る取り組みを進めてきました。

このたび，その取り組みの一環として，DBJが発行する「北海道ハンドブック　平成31年版」の表紙に，農学部３年 井口　光さんが撮影した写真が掲載されました。

掲載写真のタイトルは「草影の物語“Tale in the Thicket”」で，農場に現れたキタキツネの家族を撮影したものです。この写真は，北海道大学生協フォトコンテスト2018にも入賞した作品です。

DBJの北海道ハンドブックは，北海道の産業・経済に関する統計や主要プロジェクト等を幅広く収録したもので，平成元年から毎年DBJが発行し，民間企業・官公庁を中心に約3,000部が配付されています。

今回の取り組みを通じ，両機関のさらなる連携の強化，そして，本学の学生が北海道経済に深く関心を持つことを期待します。

（農学部）

北海道ハンドブック平成31年版　表紙

# 工学系部局で「第2回こころの健康セミナー」を開催

工学研究院，情報科学研究科，量子集積エレクトロニクス研究センターでは，「工学系部局なんでも相談室」による主催行事として，年２回「こころの健康セミナー」を開催しています。

12月11日（火）に，工学研究院B32講義室において，工学系部局なんでも相談室カウンセラーである石原一人氏（合同会社メンタルアシスト北海道・職業カウンセラー）による，本年度第２回目の「こころの健康セミナー」を開催しました。

本セミナーでは，「セルフマネジメント～気分・思考の切換えのヒント～」と題して，パフォーマンスの向上や健康維持に大切なセルフマネジメントの重要性とそれを阻害する気分・思考を切り換えるための視点等について学び，その理解・認識を深める講演に22名の学生及び教職員が参加しました。

終了後のアンケートでは，「怒りのコントロール，マインドフルネスと呼吸法，笑いと健康など日常生活に有益な話が聴けてよかった」「セミナーの内容が今後の生活に役立つと思う」「こころの健康に関心が深まった」等の感想が多く寄せられました。

工学系部局では，今後も学生及び教職員向けに「こころの健康セミナー」を開催する予定です。

（工学研究院，情報科学研究科，
量子集積エレクトロニクス研究センター）

セミナー風景

# 低温科学研究所技術部で第8回技術部セミナーと第24回技術報告会を開催

12月７日（金），低温科学研究所講堂において，低温科学研究所技術部，技術支援本部共催による第８回技術部セミナーと第24回技術報告会を開催しました。

セミナーでは，本学理学研究院薄片技術室から講師を招へいし，薄片技術の紹介及び部局を越えた協働について講演いただきました。報告会では，12件（うち１件は要旨のみ）の低温科学研究所技術部が関わった研究発表等について，教員・研究員・技術職員が報告を行いました。

例年同様，専門領域を越えて多様な分野の研究に触れる貴重な場となり，延べ30名程の研究所内外の研究者・学生・技術職員が参加し，活発な意見が交わされました。

本報告会の内容をまとめた「北海道大学低温科学研究所技術部技術報告第24号」を発行しました。報告集は本研究所技術部ウェブサイトをご覧ください。

◆http://www.lowtem.hokudai.ac.jp/tech/

（低温科学研究所）

渡辺　力技術部長による挨拶

技術報告会の様子

# 高森　明氏の作品「カスベA」を水産科学研究院で受贈

水産科学研究院では，平成29年５月に逝去された函館出身の画家である高森　明氏の作品「カスベＡ（F100号）」を，高森氏の姪御様である清水久美子様より昨年11月にご寄贈いただきました。

また，大阪府堺市在住である清水様の函館訪問の機会に合わせて，12月10日（月）に函館キャンパスにおいて感謝状贈呈式を行いました。

生前，高森氏は「没後は自分の描いた絵を地元に遺して欲しい」と語っていたことから，ご家族は故人のご遺志を具現化すべく，高森氏の母校である函館市の小中高や道南の教育機関等に作品を寄贈されており，この度の水産科学研究院への寄贈もその一環として行われたものです。

寄贈いただいた作品は，昭和41（1966）年に開催された「独立美術協会第34回展」に出品されたものであり，高森氏はこの第34回展において「会員」となったことから記念すべき作品ともいえます。寄贈を受けるにあたっては，木村暢夫水産科学研究院長により，複数の作品の中から本研究院の研究分野をイメージさせるものとして，この作品を選定させていただきました。

寄贈いただいた貴重な作品は，末永く大切に扱っていくとともに，学生・教職員のみならず，多くの来訪者の方にも鑑賞していただけるよう，正面玄関ホールに展示しています。

（水産科学研究院）

贈呈式出席者による記念撮影

寄贈作品を前にして

# 函館キャンパスで防災訓練を実施

12月４日（火），函館キャンパスにおいて「防災訓練」を実施しました。

訓練当日は，約300名の学生・教職員等の参加があり，地震災害及び地震による津波発生を想定した自衛消防隊の通報連絡，避難誘導の各訓練に併せて，学生・教職員等による避難訓練等を，防災行動の能率・統制推進と防災意識の高揚を図ることを目的として行いました。

参加者は防災意識を新たにするとともに，訓練の重要性を再認識していました。

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）

統括管理者による自衛消防隊へ初動の指示の様子

避難者の安否確認の様子

# スポーツチャンバラ世界選手権大会で本学学生及び職員が活躍

本学の公認学生団体「スポーツチャンバラ部翠剣会（すいけんかい）」主将の法学部２年生の関口将貴選手が，12月９日（日）に東京都調布市にある武蔵野の森総合スポーツプラザにおいて開催された「第43回スポーツチャンバラ世界選手権大会」（主催：国際スポーツチャンバラ協会）に出場し，見事「長巻（ながまき）の部」の種目別優勝者となりました。

関口選手は，８月19日（日）に開催された第44回全日本選手権大会において「長巻の部」優勝者となった選手に準決勝で敗れ３位となっていましたが，本大会の決勝で同選手と再び対戦し，これを破り全日本選手権大会での雪辱を晴らすとともに，世界王者の栄冠を手にしました。

また，部の監督を務める北キャンパス合同事務部係長の近藤哲仁選手は「楯短刀・短槍の部」で３位となり，工学部４年生の前田進太朗選手は「長剣フリー初段の部」で優勝，工学部２年生の櫻井慶悟選手は「長剣フリー１，２級の部」で準優勝，「長剣両手１，２級の部」では３位となりました。

関口選手は「来年は全日本選手権大会と世界選手権大会の両方で優勝できるよう，今まで以上に練習に力を入れたいです」とさらなる意気込みを述べました。

（北キャンパス合同事務部）

金メダルを手にする関口選手（左から2人目）

長巻を構える関口選手

# 北海道大学病院で「第59回ふれあいコンサート クリスマスの夕べ」を開催

北海道大学病院では12月18日（火），「第59回ふれあいコンサート クリスマスの夕べ」を開催しました。毎年，患者サービス推進委員会が中心となって色々な企画をしており，今年も会場の病院アメニティホールには，電飾が施された高さ３mの特大クリスマスツリーや空気で膨らませたエアサンタが飾られ，見慣れた風景が華やかに彩られました。

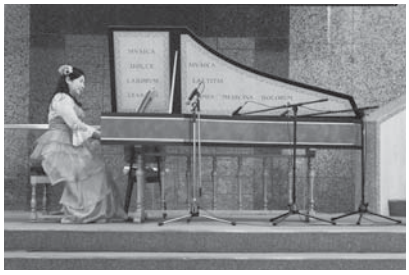
寳金清博病院長の挨拶で開会し，続いて明楽みゆき氏によるチェンバロ演奏，ソプラノ歌手の前田奈央子氏による歌唱（ピアノ演奏：齋藤智奈美氏）が披露されました。定番のクリスマスソングを中心に披露され，会場にはクリスマスの雰囲気が満ちあふれました。

開会前には参加者へのプレゼント配付，演奏の合間には北海道日本ハムファイターズ選手のサイン入り色紙等を景品としたお楽しみ抽選会が行われ，多くの患者さんたちに笑顔の輪が広がりました。

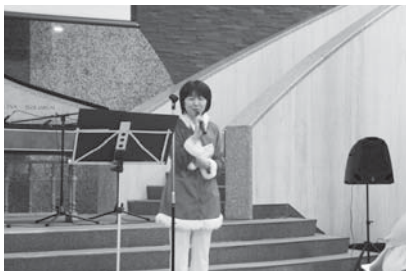
コンサートは鹿内三起子副看護部長の挨拶で幕を閉じました。職員らによる手作りのクリスマスコンサートは，訪れた人々の心に温かな思い出を残したことでしょう。

（北海道大学病院）

開会の挨拶をする寳金病院長


明楽氏によるチェンバロ演奏

前田氏によるソプラノ歌唱


鹿内副看護部長による閉会の挨拶

# 第6回北極域オープンセミナーを開催

12月12日（水），北極域研究共同推進拠点*主催による第６回北極域オープンセミナーを，TKP東京駅日本橋カンファレンスセンターにて開催しました。

本セミナーは，温暖化による海氷減少などの環境変化を背景に，石油・LNGをはじめとする資源開発や海運ネットワーク，農林水産業，観光，通信など社会的・経済的変化に直面している北極域の持続的利用の可能性に向け，主に企業や官公庁の関係者の皆様に北極域の最新情報を提供すると共に，北極域に関する研究への新規参入の需要を喚起することを目的としています。

今回は，これまでの北極域オープンセミナーあるいは北極域産学官フィージビリティスタディ共同研究からのアンケート結果などに基づき，北極域科学技術研究の中でも特に関心が高かった「北極域観測・予測技術研究」に焦点を当て，宇宙衛星，永久凍土，水産資源，海洋生態系，海氷，北極海航路支援に関する最新の観測・予測技術情報を提供し，社会実装や事業創出への可能性を議論することを主旨として開催しました。

産業界を中心に約60名と多くの方々が参加し，活発な質疑応答・交流がなされ盛会裡に終了しました。

*北極域研究共同推進拠点
国立大学法人北海道大学北極域研究センター（中核施設），大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所国際北極環境研究センター（連携施設），国立研究開発法人海洋研究開発機構北極環境変動総合研究センター（連携施設）の３基幹による連携ネットワーク型の共同利用，共同研究拠点。

（北極域研究センター）

宇宙航空研究開発機構地球観測研究センター
堀　雅裕 主任研究開発員
講演「気候変動観測衛星“しきさい”による北極域観測とその応用」

東京大学大学院新領域創成科学研究科
山口　一 教授
講演「北極海航行支援に向けた観測・予測技術の展望と砕氷船への期待」

## お知らせ

# 輸出貿易管理令別表第一の一部改正に本学教員が寄与

日本の安全保障輸出管理は，我が国を含む主要国が参加する国際輸出管理レジームにおける合意の下，大量破壊兵器の拡散防止及び通常兵器の過剰な蓄積の防止等の観点から，外国為替及び外国貿易法等の関連法令により規制されており，科学技術の発展状況等に応じて，規制対象品目や仕様等について所要の改正が毎年行われております。

その規制対象品目や仕様等を規定する輸出貿易管理令別表第一関連の改正が，平成30年11月９日に公布され，平成31年１月９日から施行されました。この改正においては，例えば，コンピュータ関連で，スパコンに係る規制値である加重最高性能が，16実効テラ演算から29実効テラ演算に緩和されるなど，随所に追加変更がされております。

とりわけ，生物兵器に関連するウイルスの分野で，本学に影響のある，次のような改正が行われております。

（改正前）トリインフルエンザウイルス

（改正後）高病原性鳥インフルエンザウイルス

この改正は，本学の人獣共通感染症リサーチセンターや獣医学研究院からの強い要望に基づき，本学から経済産業省に申し入れを行ってきた事項が反映されたものです。

上記センター等では，WHOなどの国際機関等から鳥インフルエンザウイルスの提供要請が多々あり，この要請に対しては速やかに対応する必要があります。しかしながら，改正前はあらゆる鳥インフルエンザウイルスが規制対象となっており，提供するものが低病原性の鳥インフルエンザウイルスであっても経済産業大臣の許可を要し，提供要請に即応できないという問題がありました。

このことを解決するために，国際輸出管理レジームの合意に基づいて，高病原性のものに限定して規制するよう，本学から経済産業省に対して行った足かけ３年の申し入れが実り，今回の改正に至りました。これにより，今後は，低病原性の鳥インフルエンザウイルスについては，学内手続きだけで迅速な提供が可能となり，本学の更なる国際貢献が期待されるところです。

現在，大学は適切な安全保障輸出管理を行いつつ国際貢献等を実施していかなければなりません。それら規制の中にあっても，今回の改正のように，研究活動を進める上で不都合のある規制事項に対して，要望することによって改善されることもあります。研究者の皆様におかれましても，ご自身の研究と安全保障輸出管理との関わりについて，ご一考いただけますと幸いです。

（産学・地域協働推進機構）

## 博士学位記授与

12月25日（火）に本学大学院研究科等の所定の課程を修了した課程博士は25人，及び本学に学位論文を提出してその審査，試験等に合格した論文博士は３人でした。なお，被授与者の氏名と論文題目等は次のとおりです。

（学務部学務企画課）

### 課程博士

| 博士の専攻分野の名称 | 博士の学位を授与された者<br>氏　名 | 博　士　論　文　名 |
|---|---|---|
| 博士（文学） | 小（お）　椋（ぐら）　佐奈衣（さなえ） | 幼児の歌唱能力を規定する要因の解明：家庭における音楽環境と認知能力との関連性に着目して<br>主査：教授　安達　真由美 |
| 博士（法学） | 畢（ビ）　凡（ボウ） | 日中公的老齢年金制度の制度設計に関する比較研究－所得保障としての法的性格から－<br>主査：教授　加藤　智章 |

| 博士の専攻分野の名称 | 博士の学位を授与された者<br>氏　名 | 博　士　論　文　名 |
|---|---|---|
| 博士（経済学） | 山田大地（やまだ だいち） | Essays on Labor Migration, Education and Beliefs<br>（労働移民・教育および信念）<br>主査：教授　板谷　淳一 |
| 博士（医学） | 石川隆壽（いしかわ たかひさ） | ラットの心臓死ドナー肝における水素ガスによる虚血再灌流障害軽減効果に関する研究<br>主査：教授　坂本　直哉 |
| | 伊藤久美子（いとう くみこ） | 妊娠初期の血清葉酸濃度と先天異常リスクに関する研究－前向き出生コホート：環境と子どもの健康に関する北海道スタディによる検討－<br>主査：教授　西浦　博 |
| | 伊東孝政（いとう たかまさ） | 除菌療法中のヘリコバクター・ピロリ過敏症における細胞外小胞を介した抗原提示の役割に関する研究<br>（Potential role of extracellular vesicle-mediated antigen presentation in *Helicobacter pylori* hypersensitivity during eradication therapy）<br>主査：教授　清野　研一郎 |
| | 岡村国茂（おかむら くにしげ） | 胆道再建手術における術前胆汁培養結果に基づいた周術期抗菌薬投与の有用性に関する無作為化比較試験<br>主査：准教授　神山　俊哉 |
| | 小丹枝裕二（こにし ゆうじ） | 大腸癌における新規予後予測マーカーとしての簇出とhCGβ発現の意義に関する研究<br>主査：教授　平野　聡 |
| | 藤原晶（ふじわら あき） | 原発性肺癌におけるMelanoma antigen family A4発現の細胞内局在と予後予測に関する研究<br>主査：教授　白土　博樹 |
| 博士（獣医学） | Md. Atiqul ISLAM（エムディーアティクル イスラム） | Analysis for genetic loci controlling protoscolex development in the *Echinococcus multilocularis* infection using congenic mice<br>（コンジェニックマウスを用いた多包条虫感染における原頭節形成をコントロールする遺伝子座の解析）<br>主査：教授　安居院　高志 |
| 博士（情報科学） | 高姍（コウ サン） | Fast Exact Inference Algorithms for Bayesian Networks Based on ZDD Operations<br>（ZDD演算に基づくベイジアンネットワークの高速かつ厳密な確率推論アルゴリズム）<br>主査：教授　有村　博紀 |
| 博士（環境科学） | DAGVADORJ Lavdmaa（ダグワドルジ ラワダマー） | The role of community trust in mining companies with focus on environmental perception: two case studies in Mongolia<br>（地域コミュニティの環境認知が鉱山会社への信頼に及ぼす役割：モンゴルにおける２つの事例研究）<br>主査：准教授　石川　守 |
| | FAN Rong（ファン ロン） | The study on physiology and ecology of willows under flooding in Indigirka River lowland, Northeastern Siberia, using stable isotope tools<br>（同位体比を用いた北東シベリアインディギルカ河川低地氾濫域のヤナギの生理学的および生態学的研究）<br>主査：教授　杉本　敦子 |
| | 三村慧（みむら さとる） | Studies on the formation of high ice-concentration cirrus in the Tropical Tropopause Layer<br>（熱帯対流圏界層における高氷晶数密度巻雲の生成過程に関する研究）<br>主査：教授　長谷部　文雄 |
| | 李光磊（リー ゴウライ） | Suzuki-Miyaura cross-coupling based synthesis and characterization of fluorescent and chemiluminescent boron dipyrromethene dyes spanning near-infrared region<br>（近赤外領域にわたるボロンジピロメテン蛍光および化学発光色素の 鈴木-宮浦クロスカップリングを活用した合成とその特性評価）<br>主査：准教授　山田　幸司 |
| 博士（生命科学） | KOH Isabel Siew Yin（コウ イサベル シューイン） | Multi-channel Collagen Gel (MCCG) as a Biomaterial Scaffold for Tissue Engineering<br>（組織工学のための生体材料足場としてのマルチチャンネルコラーゲンゲル（MCCG））<br>主査：教授　芳賀　永 |

| 博士の専攻分野の名称 | 博士の学位を授与された者<br>氏　名 | 博　士　論　文　名 |
|---|---|---|
| 博士（生命科学） | ASOGWA Chinweike Norman（アソグワ チンウェイケ ノーマン） | Inter- and intra-species differences in muscarinic acetylcholine receptor expression in the neural pathways for learned vocalization in songbirds<br>（鳴禽類歌神経回路において種内個体差・種間差発現を示すムスカリン性アセチルコリン受容体の研究）<br>主査：准教授　和多　和宏 |
| | 早瀬　晋（はやせ しん） | Singing experience-dependent gene regulation for the critical period of vocal learning<br>（自発的な発声練習が制御するソングバード学習臨界期に関する研究）<br>主査：准教授　和多　和宏 |
| 博士（国際広報メディア） | 張　俊　嬌（チョウ シュン キョウ） | Knowing How to Change Attitude: Persuasive Communication of Travel Information Engagement on Social Media in China<br>（態度変更方法に関する考察―中国ソーシャルメディアにおける旅行情報参画への説得コミュニケーション―）<br>主査：教授　伊藤　直哉 |
| 博士（学術） | 根岸美聡（ねぎし みさと） | 中国語臨海方言の記述的研究――ヴォイス・アスペクト体系を中心に<br>主査：准教授　飯田　真紀 |
| 博士（工学） | 張　天　龍（ジャン テン ロン） | Structure refinement of Al-coated Mg-Li alloy by multi extrusion-rolling process and its superplastic characteristics<br>（押出圧延複合プロセスによるAl被覆Mg-Li合金の組織微細化と超塑性特性）<br>主査：特任教授　松浦　清隆 |
| | Chung Yong Ho（ジョン ヨン ホ） | Research on Le effect of Acoustic Instability in Downward Propagating Flames<br>（下方伝播火炎での音響学的不安定性に対するLeの影響）<br>主査：教授　藤田　修 |
| | Sirisit Natee（シリシット ナティ） | Advanced XAFS analysis for local structure of functional materials<br>（先端XAFS解析の開発と機能性物質の局所構造）<br>主査：教授　朝倉　清高 |
| 博士（理学） | 遠堂敬史（えんどう たかし） | Studies on The Crystal Structure and Magnetic Properties of Melilite-Type Compounds<br>（メリライト型化合物の結晶構造と磁気的性質に関する研究）<br>主査：教授　武田　定 |
| | 髙城幹太（たかぎ みきお） | 正常上皮細胞層からの変異細胞の逸脱を制御するミオシン-II-スペクトリン複合体の役割の解明<br>主査：教授　村上　洋太 |

## 論文博士

| 博士の専攻分野の名称 | 博士の学位を授与された者<br>氏　名 | 博　士　論　文　名 |
|---|---|---|
| 博士（医学） | 古川浩司（ふるかわ こうじ） | 虚血性脳血管障害における血液粘度測定に関する研究<br>主査：教授　安斉　俊久 |
| 博士（環境科学） | 佐藤広子（さとう ひろこ） | Evaluation of transgenic tall fescue (*Festuca arundinacea* Schreb.) improved for important forage and turf traits<br>（牧草および芝草の重要形質を改良したトールフェスク形質転換体の評価）<br>主査：教授　山田　敏彦 |
| 博士（工学） | 南山瑞彦（みなみやま みずひこ） | 下水汚泥中内分泌かく乱物質の汚泥処理過程及び土壌環境中での挙動<br>主査：特任教授　高橋　正宏 |

## ▌レクリエーション

# 平成30年度学内教職員フットサル大会の開催

９月３日（月）から震災の影響で中断を挟み，12月13日（木）にかけて学内教職員フットサル大会を第２体育館にて開催しました。学内から昨年より１チーム多い19チームが参加し，連日熱戦が繰り広げられました。

決勝戦では，薬学部が勝利し，優勝を飾っています。対戦結果は下記のとおりです。

また，教職員サッカークラブは入部・見学を随時受け付けています。興味のある方は，お近くの部員，もしくはホームページの問い合わせ先までご連絡ください。

◆北大教職員サッカークラブHP：http://hokudaikyousyokuinsc.web.fc2.com/

（教職員サッカークラブ）

平成30年度 学内フットサル大会トーナメント表

| 試合開始時間 |
| --- |
| ①：17:15～ |
| ②：17:40～ |
| ③：18:05～ |

優勝チーム　薬学部

決勝戦の様子

## 諸会議の開催状況

**役員会**（平成30年12月10日）

議　　案・2020年度概算要求の基本方針について

協議事項・学内共同施設（研究施設）「広域複合災害研究センター（仮称）」の設置について
・専門職大学院における成績優秀者に対する入学料・授業料免除措置の継続について
・新渡戸カレッジと新渡戸スクールとの統合及び新渡戸カレッジと現代日本学プログラム課程との連携について
・諸規則の一部改正について

報告事項・平成29年度に係る業務の実績に関する評価の結果について
・障害者の雇用状況等について
・平成30年度財政状況及び第３期中期目標期間の財政見通しについて
・平成30年人事院給与勧告等について
・平成30年度運営費交付金の追加配分について

---

**役員会**（平成30年12月18日）

議　　案・総長の職務代理及び各種会議の議長代行について

---

**教育研究評議会**（平成30年12月19日）

議　　題・総長選考会議委員（補欠）の選出について
・学内共同施設（研究施設）「広域複合災害研究センター（仮称）」の設置について
・専門職大学院における成績優秀者に対する入学料・授業料免除措置の継続について
・新渡戸カレッジと新渡戸スクールとの統合及び新渡戸カレッジと現代日本学プログラム課程との連携について
・諸規則の一部改正について

報告事項・平成30年度産学官連携活動における利益相反マネジメントの実施について
・平成29年度に係る業務の実績に関する評価の結果について
・2020年度概算要求の基本方針について
・平成30年度運営費交付金の追加配分について
・平成29事業年度決算剰余金の繰越承認について
・学生の懲戒について

---

**役員会**（平成30年12月25日）

議　　案・学内共同施設（研究施設）「広域複合災害研究センター（仮称）」の設置について
・専門職大学院における成績優秀者に対する入学料・授業料免除措置の継続について
・新渡戸カレッジと新渡戸スクールとの統合及び新渡戸カレッジと現代日本学プログラム課程との連携について
・諸規則の一部改正について

報告事項・北海道大学教職員組合からの要請について
・会計検査院による平成29年度決算検査報告について

---

※規程の制定，改廃については，「学内規程」欄に掲載しています。

# 学内規程

## 国立大学法人北海道大学内部監査規程等の一部を改正する規程

（平成30年12月20日海大達第159号）

## 国立大学法人北海道大学寄附金規則の一部を改正する規則

（平成30年12月20日海大達第160号）

平成30年10月23日付けで，WPI対策室を廃止したこと及び創成研究機構に化学反応創成研究拠点を置くことに伴い，所要の改正を行うとともに，併せて規定の整備を行ったものです。

## 国立大学法人北海道大学創成研究機構グローバルファシリティセンター分析・加工受託規程の一部を改正する規程

（平成31年１月１日海大達第１号）

創成研究機構グローバルファシリティセンターにおいて，材料加工に使用する設備の追加を行うことに伴い，所要の改正を行ったものです。

## 北海道大学新渡戸カレッジ規程の一部を改正する規程

（平成31年１月１日海大達第２号）

平成31年４月１日付けで、新渡戸カレッジ及び新渡戸スクールが統合されること，並びに新渡戸カレッジへ現代日本学プログラム課程学生を受け入れることに伴い，所要の改正を行うとともに，併せて規定の整備を行ったものです。

## 国立大学法人北海道大学における教員の任期に関する規程の一部を改正する規程

（平成31年１月１日海大達第３号）

平成31年１月１日付けで，先端生命科学研究院の研究院長付に採用する教授，准教授，講師及び助教について，新たに大学の教員等の任期に関する法律第４条第１項第１号に基づき任期を定めることに伴い，所要の改正を行ったものです。

## 国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程

（平成31年１月１日海大達第４号）

本学のオープンファシリティについて，設備の追加を行うことに伴い，所要の改正を行ったものです。

## 北海道大学数理・データサイエンス教育研究センター規程の一部を改正する規程

（平成31年１月１日海大達第５号）

数理・データサイエンスの修士課程教育に係る新規補助事業に採択されたことに伴い，所要の改正を行ったものです。

## 北海道大学数理・データサイエンス教育研究センター運営委員会規程の一部を改正する規程

（平成31年１月１日海大達第６号）

数理・データサイエンス教育研究センター運営委員会の委員の構成を変更することに伴い，所要の改正を行ったものです。

## 研修

**研修名：平成30年度北海道地区国立大学法人等学生支援担当職員SD研修**

**開催期間**：平成30年12月13日・14日
**開催場所**：クラーク会館大集会室２
**研修目的**：学生指導，学生支援及び学生サービス業務を円滑かつ適正に行うために必要な基本的知識，対応能力等を習得することにより，学生支援担当職員としての能力の向上を図ることを目的とする。

開会挨拶（関　靖直理事・事務局長）

講義・演習（株式会社アムリプラザ）

講義・演習
（学生相談総合センターアクセシビリティ支援室）

（学務部学生支援課）

## 表敬訪問

**海外**

| 年月日 | 来　訪　者 | 来 訪 目 的 |
|---|---|---|
| 30.12. 7 | 全北大学校（韓国）Lee Nam Ho学長 | 両大学の交流に関する懇談 |

全北大学校（韓国）Lee Nam Ho学長
（右から3番目）

（国際部国際連携課）

# 人事

## 平成30年12月15日付発令

| 新　職　名（発令事項） | 氏　　名 | 旧　職　名（現職名） |
|---|---|---|
| 【部局長・施設長等】<br>大学院法学研究科長<br>法学部長<br>（期間：平成32年12月14日まで） | 池　田　清　治 | 大学院法学研究科教授 |
| 【副研究科長・副研究院長等】<br>大学院法学研究科副研究科長<br>（期間：平成32年12月14日まで） | 小名木　明　宏 | 大学院法学研究科教授 |
| 【教育研究評議会評議員】<br>（期間：平成32年12月14日まで） | 小名木　明　宏 | 大学院法学研究科教授 |

## 平成31年1月1日付発令

| 新　職　名（発令事項） | 氏　　名 | 旧　職　名（現職名） |
|---|---|---|
| 【教授】 | | |
| 国際連携研究教育局・大学院先端生命科学研究院教授 | 相　沢　智　康 | 国際連携研究教育局・大学院先端生命科学研究院准教授 |
| 大学院先端生命科学研究院教授 | 比　能　　洋 | 大学院先端生命科学研究院准教授 |

## 新任部局長等紹介

平成30年12月15日付

### 法学研究科長・法学部長に

**池田（いけだ）　清治（せいじ）　教授**

平成30年12月14日限りで加藤智章法学研究科長・法学部長が任期満了となり，その後任として池田清治教授が発令されました。

任期は，平成32年12月14日までです。

**略　歴**

生　年　月　日　昭和36年12月１日
昭和59年３月　小樽商科大学商学部卒業
昭和61年３月　北海道大学大学院法学研究科修士課程修了
平成元年３月　北海道大学大学院法学研究科博士課程単位修得退学
平成元年４月　北海道大学法学部助手
平成３年３月　法学博士（北海道大学）
平成３年８月　北海道大学法学部助教授
平成12年４月　北海道大学大学院法学研究科助教授
平成13年４月　北海道大学大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター助教授
平成14年４月　北海道大学大学院法学研究科助教授
平成15年４月　北海道大学大学院法学研究科教授
平成24年４月～平成26年３月　北海道大学大学院法学研究科副研究科長
平成28年12月～平成30年12月　北海道大学教育研究評議会評議員
平成28年12月～平成30年12月　北海道大学大学院法学研究科副研究科長

## 新任教授紹介

平成31年１月１日付

先端生命科学研究院教授に

### 相沢（あいざわ）　智康（ともやす）　氏

先端融合科学研究部門生命分子科学分野

**生年月日**
昭和48年10月７日

**最終学歴**
北海道大学大学院理学研究科博士後期課程修了（平成13年３月）
博士（理学）（北海道大学）

**専門分野**
蛋白質科学，NMR分光学

先端生命科学研究院教授に

### 比能（ひのう）　洋（ひろし）　氏

先端融合科学研究部門新薬探索研究分野

**生年月日**
昭和47年７月１日

**最終学歴**
埼玉大学大学院理工学研究科博士後期課程修了（平成12年３月）
博士（工学）（埼玉大学）

**専門分野**
有機化学，ケミカルバイオロジー，糖質科学

## 編集メモ

●本年も早１ヶ月が過ぎました。真冬日となる日も多く，冬の寒さが本格的になっています。

●受験シーズンを迎え，１月19日（土）・20日（日）には，大学入試センター試験が本学でも実施されました。前日までに降った雪による交通機関への影響が心配されましたが，当日は天気に恵まれ，大きな混乱もなく，試験は無事終了しました。

2016.1.2　留萌本線　峠下（留萌市）

## 北の鉄道風景 70 列車交換

JR北海道のローカル路線は全て単線区間となっている。更に，道内各都市を結ぶ幹線であっても，例えば石勝線や室蘭本線などのように，全区間あるいは一部区間が単線という路線もある。単線区間で対向する複数の列車を同時に走らせる際には，列車の正面衝突を避けるための施設が必要になる。具体的には，区間の一部のみ複線として，そこで対向する列車を行き違いさせればよい。このような列車の行き違いは列車交換と呼ばれ，旅客扱いが有る列車交換施設を交換可能駅，旅客扱いが無いものを信号場という。単線のローカル路線では，一部の駅のみ交換可能駅として，そこで列車交換を行うのが一般的である。写真は留萌本線，峠下駅での列車交換の様子である。JR北海道が廃止の方針を示している同路線，このような情景が見られるのも，あとわずかなのかもしれない。

情報科学研究科　准教授　山本　学

**北大時報①　No.778**　　平成31年1月発行

北海道大学総務企画部広報課　〒060－0808 札幌市北区北８条西５丁目
TEL：（011）706－2610 ／ FAX：（011）706－2092 ／ E-mail : kouhou@jimu.hokudai.ac.jp
北大時報はインターネットでもご覧いただけます。https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html